



2016秋季号  
[vol.25]

発行責任者：松崎 秀雄  
事務局：熊本市中央区水前寺 3-9-5  
(株)ヤマックス内(〒862-0950)  
NPO法人九州コンクリート製品協会  
編集責任者：上田 泰博  
発行年月：平成28年10月



# 平成28年熊本地震発生

## 震度7の激震が2度 住宅・公共インフラに壊滅的な打撃！？

平成28年4月14日21時26分、熊本県益城町を震源とする震度7(M6.5)の地震が発生。その後も余震が続き眠れぬ夜が明けた翌日、被害の少なかつた住民たちが片づけに追われ、眠りについた夜。4月16日01時25分、新たに益城町を震源とする震度7の激震が熊本地方を襲った。震源となった益城町をはじめ周辺では2度にわたる激震で住宅



のみならず、公共インフラなどに壊滅的な打撃を与えた。ライフラインである水道・電気・ガスがすべてストップ。九州新幹線の脱線や九州自動車道の崩壊、山間部では土砂災害が発生し、国道57号立野付近では土砂崩落により阿蘇大橋が崩落。天下の名城・熊本城でも石垣の倒壊などによりすべての施設が被害を受けた。熊本地方の広範囲におよぶ未曾有の大災害となった。

当協会は、平成27年3月に、九州地方整備局との間で「災害時における災害応急対策業務の情報提供等に関する協定」を締結しており、今回発生した地震災害に対して、発災直後に防災対策本部を設置、松崎会長を本部長とする対応を開始した。



当協会は九州地方整備局との防災協定締結にあたり、①コンクリート製品等の在庫情報の提供、②資機材の一時仮置きを目的とした工場敷地情報の提供、③被災地域の各種診断等が可能となる有資格者情報の提供について大規模災害発生時に対応することを定めている。

※次ページに本協定の概要をイラストを交えて図示しています。

4月18日(月) 緑川の堤防に甚大な損傷が発生したこと、九州地方整備局が応急復旧に着手。九州地方整備局防災課より、その際に必要とされる「大型接続ブロック」の在庫情報を事務局に電話で問い合わせがあり、協定に基づく対応として、協会全工場に緊急在庫照会を実施。期限であった20日の正午までに九州地方整備局宛てに同製品類の在庫情報を提供した。

4月26日(火) 嘉島町地内の堤防に甚大な損傷が発生したこと、九州地方整備局が応急復旧に着手。九州地方整備局防災課より、その際に必要とされる「ブロック」の在庫情報を事務局に電話で問い合わせがあり、協定に基づく対応として、協会全工場に緊急在庫照会を実施。期限であった28日の正午までに九州地方整備局宛てに同製品類の在庫情報を提供した。

九州中川ヒューム管工業(株)	宮崎県宮崎市佐土原町下田島 20048	0985-73-1511
和光コンクリート工業(株)	宮崎県日向市向江町2丁目125番地	0982-52-3610

大分県	大分県大分市大字中戸次 4763	097-597-3113
大分県	大分県杵築市山香町速見インター工業団地	0977-44-6262

九州コンクリート製品協会 会員名簿

会員会社名	県	住所	TEL
麻生商事(株)	福岡	820-0609 福岡県嘉穂郡桂川町吉隈 430-27	0948-20-2020
大野コンクリート(株)	福岡	819-0036 福岡県福岡市西区大字吉武 61-1	092-811-6677
(株) 柏木興産	福岡	812-0006 福岡県福岡市博多区上牟田 1丁目27番1	092-473-7858
(株) 九コン	福岡	810-0062 福岡県福岡市中央区荒戸 3丁目4番16号	092-741-5731
九州高圧コンクリート工業(株)	福岡	815-0035 福岡県福岡市南区向野 1丁目13番14号	092-554-6660
共和コンクリート工業(株)九州営業部	福岡	812-0025 福岡県福岡市博多区店屋町 8番24号	092-262-5755
ケイコン(株)西日本支店	福岡	812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 2丁目13-26	092-471-1784
小倉セメント製品工業(株)	福岡	802-0052 福岡県北九州市小倉北区霧ヶ丘 3-11-10	093-921-0136
昭和コンクリート工業(株)九州支店	福岡	812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南 4丁目2-10	092-472-6463
大建コンクリート工業(株)	福岡	838-0223 福岡県朝倉郡筑前町砥上 2220	0946-42-3131
中里産業(株)	福岡	822-1405 福岡県田川郡香春町中津原 2787	0947-32-2132
(株)ハセガワ	福岡	824-0022 福岡県行橋市大字稲童 3649番地1	0930-23-1771
本田工業(株)	福岡	839-1342 福岡県うきは市吉井町生業 636	0943-75-4161
水谷建設工業(株)	福岡	825-0001 福岡県川崎市大字伊加利 2193番地	0947-44-2111
安永セメント工業(有)	福岡	833-0012 福岡県筑後市大字溝口 920-1	0942-53-3329
(株)ヤマウ	福岡	811-1102 福岡県福岡市早良区東入部 5丁目15-7	092-872-3301
大協コンクリート(株)	佐賀	842-0121 佐賀県神埼市神埼町志波屋 1956	0952-52-9763
不二コンクリート工業(株)	佐賀	843-0233 佐賀県武雄市東川登町大字永野 7552-2	0954-23-1211
馬渡商会(株)	長門	843-0001 佐賀県武雄市朝日町大字久 3498-2	0954-23-4145
H. O. C(株)	長門	856-0835 長門県大村市久原 2丁目1533-2	0957-53-2112
熊本不二コンクリート工業(株)	熊本	861-1214 熊本県菊池市泗水町田島 2444	0968-38-3131
三和コンクリート工業(株)	熊本	863-0021 熊本県天草市港町 16-13	0969-22-5124
土佐屋コンクリート工業(株)	熊本	860-0863 熊本県熊本市中央区坪井 6丁目38番15号	096-343-3855
不二高圧コンクリート(株)	熊本	861-4114 熊本県熊本市南区野田 1丁目4番72号	096-358-8585
南九州コンクリート(株)	熊本	866-0033 熊本県八代市港町 262-57	0965-37-0124
(株)ヤマックス	熊本	862-0950 熊本県熊本市中央区水前寺 3丁目9番5号	096-381-6300
(株)和商一	熊本	868-0415 熊本県球磨郡あさぎり町兎田西 3003-2	0966-45-1251
(株)池永セメント工業所	大分	879-7761 大分県大分市大字中戸次 4763	097-597-3113
大建コンクリート(株)	大分	879-1313 大分県杵築市山香町速見インター工業団地	0977-44-6262
九州中川ヒューム管工業(株)	宮崎	879-1313 宮崎県宮崎市佐土原町下田島 20048	0985-73-1511
和光コンクリート工業(株)	宮崎	883-0051 宮崎県日向市向江町2丁目125番地	0982-52-3610

会員会社名	県	住所	TEL
インフラテック(株)	鹿児島	890-0062 鹿児島県鹿児島市与次郎 2丁目7番25号	099-252-9911
鹿児島共和コンクリート工業(株)	鹿児島	892-0821 鹿児島県鹿児島市名山町 1番3号	099-225-3881
(株)センコン	鹿児島	895-1106 鹿児島県薩摩川内市東郷町斧淵 2900番	0996-21-6282
(有)太陽コンクリート工業	鹿児島	891-0144 鹿児島県鹿児島市光山 2丁目1番60号	099-261-6911
(株)大建	鹿児島	891-1301 鹿児島県鹿児島市西佐多町 942番地1	099-295-1151
(株)浜崎コンクリート工業	鹿児島	894-1508 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋 1114-69	0997-72-1179
北南コンクリート(株)	鹿児島	891-3101 鹿児島県西之表市西之表 14175番地	0997-23-1878
(株)技建	沖縄	901-1207 沖縄県南城市大里字古堅 1246番地	098-945-2787
コーアツ工業(株)	鹿児島	890-0008 鹿児島県鹿児島市伊敷 5丁目7-15	099-229-8181
日新コンクリート工業(株)	鹿児島	897-0002 鹿児島県南さつま市加世田武田 14892	0993-53-2611
麻生セメント(株)福岡支店	福岡	814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 2丁目4番27号	092-833-5110
(有)稲佐鉄工所	福岡	824-0043 福岡県行橋市大字流末 1138-1	0930-23-3233
宇島技研(有)	福岡	828-0022 福岡県豊前市大字宇島 522番20	0979-82-2811
宇部三菱セメント(株)九州支店	福岡	810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1丁目12番20号	092-752-6101
(株)オング	福岡	811-4301 福岡県速賀郡速賀町島津 464-1	093-293-3635
住友大阪セメント(株)福岡支店	福岡	812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 1丁目2番5号	092-441-1441
(株)ダイクレ九州支店	福岡	812-0025 福岡県福岡市博多区店屋町 5番18号	092-262-8765
太平洋セメント(株)九州支店	福岡	812-0018 福岡県福岡市博多区住吉 1-2-25	092-263-8455
(株)チヨダマシナリ福岡支店	福岡	816-0912 福岡県大野城市牛頭 4丁目4-21-102	092-596-8314
(株)トクヤマ福岡支店	福岡	810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1丁目14番16号	092-732-6677
西村工業(株)	福岡	820-1111 福岡県飯塚市勢田 2067-9	09496-6-4117
日工(株)九州支店	福岡	816-0922 福岡県大野城市山田 3丁目10番24号	092-574-6211
BASFジャパン(株)九州エリア	福岡	838-0058 福岡県朝倉市馬田中原 3698	0946-23-8163
日吉化学工業(株)	福岡	808-0074 福岡県北九州市若松区藤ノ木 3丁目2番39	093-791-3233
ヒロセ(株)九州支店	福岡	812-0023 福岡県福岡市博多区奈良屋町 2番1号	092-283-7320
福岡金網工業(株)	福岡	812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚 1丁目3番11号	092-621-3000
森山工業(株)	福岡	830-0075 福岡県久留米市大善寺町黒田 53-1	0942-27-1147
(有)大東運輸	福岡	859-1414 長崎県島原市有明町大三東丁 671-1	0957-68-1800
(株)宝機材	福岡	501-0222 岐阜県瑞穂市別府 1723-1	058-327-2222
トヨタ機工(株)	東京	T83-0035 東京都府中市四谷 6丁目12-8	0952-53-2131
(株)日栄商事	岐阜	501-6236 岐阜県羽島市江吉良町江中 7-16	058-398-3611
富国石油(株)	静岡	410-0011 静岡県沼津市岡宮 949番地の8	055-921-4331

※本文中のカットは馬出博文氏(中津市在住)の作品です。  
※住所変更などある場合は、早めに事務局へご連絡ください。

(平成28年10月1日 現在)

### 編集後記

今年の前半には大きな出来事が2回ありました。一つは熊本地震です。予期しない震災に驚愕しました。亡くなられた方々、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。普段何も考えずに生活していると、予期しない災難が突然に襲ってくる恐ろしさからいろんな事を学びました。

もう一つはリオデジャネイロのオリンピックで日本の選手が大活躍したことでした。日本とブラジルの時差は大体12時間、ブラジルの夜は日本の朝です。だからほとんどの試合の観戦は深夜か午前中、寝不足になってしまいました。体操・水泳・柔道・レスリング・卓球・バドミントンそのほかの競技を含めて感動と夢をもらいました。

人の一生にはいろんな経験をしますし、その一つ一つが教訓になります。本紙コンパスも経験を積み重ねて25回目の発行、ご協力ありがとうございました。



広報委員長(福岡)上田泰博 記

# 九州地方整備局からの感謝状贈呈式

当協会は、発災直後から九州地方整備局との防災協定に基づき、必要とされるコンクリート製品類の在庫情報提供を実施してきました。その取組みが評価され、平成28年6月8日(水)、複数の企業・団体等とともに九州地方整備局にて感謝状贈呈式に出席、岸川理事が小平田九州地方整備局長より感謝状を受け取りました。

今後、熊本地震の被災地では長い年月をかけて復旧事業が展開されることとなりま

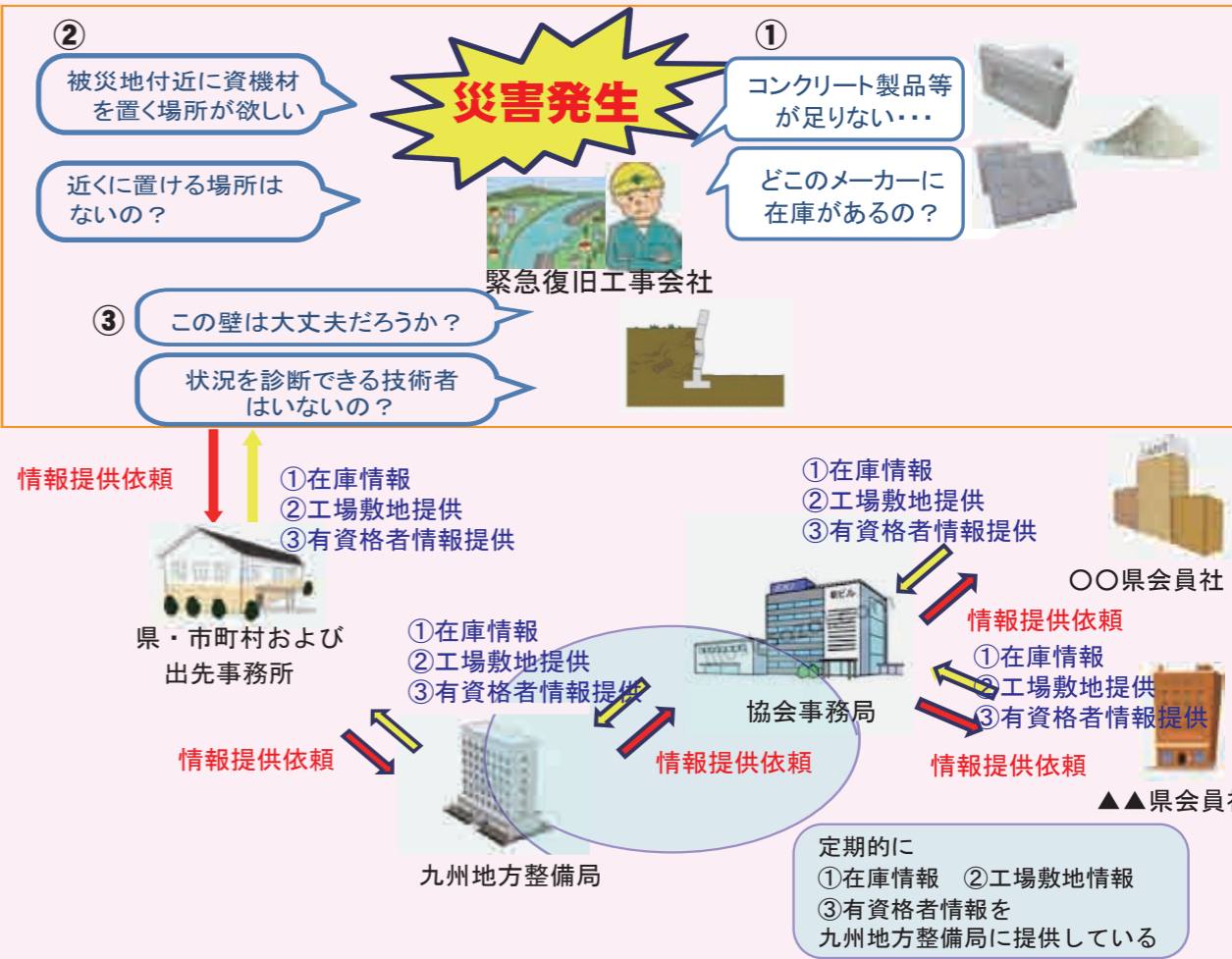


「災害は忘れた頃にやってくる」との言葉もある通り、いつどこで災害が発生するかは予測が付きません。今回の震災における対応についても、会員社の迅速な協力をいただき、協定締結団体としての責任を果たせましたが、反省すべき点も多々ありました。今後はこれらの課題を解決し、現在進行中の熊本地震復旧事業だけでなく、将来いつ起こるか分からない自然災害に対しても迅速な対応ができるよう対応の再検証等をすすめて参ります。

会員の皆様におかれましても、この協定に対するご理解・ご協力をお願い致します。(事務局・木田 聡)

## 九州地方整備局との防災協定締結内容について

- ① **コンクリート製品等（コンクリート製品、セメント、骨材）のストック情報提供**
  - 地域で供給可能な製品量を越える需要がある場合に、その近隣地域もしくは広域調達を可能とするための情報収集
  - 緊急復旧資材（トンパックなど）製造のために供給可能な骨材等の在庫情報収集
- ② **工場敷地の情報提供（被災地付近における一時的な資機材等の仮置き場として提供）**
  - 緊急復旧現場で使用する資機材の仮置き場や作業員の駐車場としての一時提供
- ③ **有資格者の情報提供（被災地等の状況判断対応として派遣）**
  - 被災地の土木構造物等の安全確認のための技術者派遣



# 一流の人生(6)

## S氏流の経営忍法③

坂口安吾の小説では軍師黒田官兵衛は「一流の人と呼ばれました。秀吉からは油断ならぬ男として恐れられ、また信頼されたものの関ヶ原では秘かな野望の天下とりを読み違えてしまい豊前中津の城主のままに収まってしまうからです。」

しかし、息子の長政の時代には筑前一国一円の国持大名になり黒田家は幕末まで続きます。結果としてみれば大成功です。それは天下を取らずに「二流に甘んじたからでしょう。」

数十年前アメリカの広告業界では「ナンバー2」を競った面白いキャンペーンがありました。レンタカー業界で二番目の会社エイビス社が広告で「わが社は業界ナンバー2です。だからナ

ンバー1には決して出来ない素晴らしいサービスとおもてなしができるのです」と宣言してナンバー1のハーツ社に挑戦、「ナンバー2こそベスト」と「二流」を武器に争ったのです。何故かナンバー2という位置づけはトップとして表に立つよりもどこことなくロマンがあつて憧れます。表で華やかに活躍するより、少し控えめに、しかし万人が認める実力者、そんな存在が二流の生き方です。

さて、本紙23、24号で前回2回ご紹介した大分県中津市の事業家広畑正吾氏(以下S氏)の事業成功の秘密を進めます。S氏は人口8万5千人(平成の広域合併後)の中津市で車の

者)がときどき出かけるサウナでの地元不動産会社に勤務するS氏の話。「今日、広畑社長がちょっとうちの会社に寄って見えられましてね、うちの社長とは友達ですからねえ。さすがですねえ、あの方は。あれだけの方なのに、麦わら帽子かぶって長靴はいてですよ。びっくりしますよ。」

夏は夕方。私(この拙文の筆者)がときどき出かけるサウナでの地元不動産会社に勤務するS氏の話。「今日、広畑社長がちょっとうちの会社に寄って見えられましてね、うちの社長とは友達ですからねえ。さすがですねえ、あの方は。あれだけの方なのに、麦わら帽子かぶって長靴はいてですよ。びっくりしますよ。」

「契約社会は時代の流れです」と云うのは間違いです。時代をつくるのは人間です。やはり暖かい血液の通ったビジネスを大事にしていかなければならない「威張らない」「出しやばらない」と人が心を通わすS氏のビジネスは「成功の玉手箱」です。※今回で「二流の人生」連載を終わります。ありがとうございます。

広告ディレクター 松山直英



「S氏は冠婚葬祭以外は殆ど正装することのない人生を送って

きました。仕事を始めた時から自分はエンジニアであり労働者であるという概念から抜け出せないまま事業家として成功していったからでしょう。」

それとS氏は本質的に「気取らない、飾らない」性格がある。都市型ビジネスは名刺1枚からスタートするが地方の地場企業では今さら名刺など必要としない仕事社会である。だからS氏には基本的に形式ばった対応など関心がなかったのです。クルマ商売の時は本社や支社の肩書を持った人がやってくるより、現場に精通した若い担当者を行くまで大切に、接待して新しい情報を得る。形式などいらぬ、ビジネスオンリー主義者なのです。だからメーカーの営業マンはいっしょにS氏のファンになり誰よりも早く情報が届き実務が進みます。今から何十年も前、ホンダがまだ二輪車のホンダカブから軽4輪クルマビジネスに転換するとき、いち早くS氏は市内に広大な敷地を購入して誰よりも早く4輪車への体制をつくったからクルマでは地域一番店になれたのです。「明日は何がくるかそれを知るだけで勝負は決まるので

おまけに高度成長時代は土地の価格も高騰、資産も増える、銀行の信用も絶大、経営に信用が付けばさらに次の情報や事業の話が持ち込まれる、それがS氏の金儲けの鉄人の所以です。さらにその儲けた金は気前よく人々に振る舞う。仲間や友達が増える、さらに情報や商売に味方が増える。良循環の見本です。さて、そんなやり方は何十年も昔の商売のやり方だ」と片付けられそうである。果たしてそうだろうか。日本のある時計会社の社長が、アメリカにビジネスで出かけたら相手の会社の社長の腕にはちゃんとその日本の時計が巻かれていた、など心な商売をするのは時代を超えていつまでもある。

小さな文字で長々と記した契約規約などまだ問題がありそうだ。そもそも契約とは何か。取引においてそれほど絶対的でないけれども重要なものなのか。普通の取引なら心情的なものだけれんどの重要性に差があるのか。

☆前頁より  
 ○同9月12日 久光、3回目の上京へ鹿児島を發ち、10月3日京に着く。  
 ○同11月15日 久光、攘夷実行に強い意欲を示す孝明天皇から今後の国家体制について問う「極密宸翰」を受く。  
 ○同12月31日 慶喜、春嶽、宗城、容保、容堂の5人、参与となる。



○文久4(1864)年1月13日 5人の参与就任を仕掛けた久光も参与に下命される。  
 ○同1月15日 將軍家茂、二条城に入る。1月から2月にかけて「国是會議」に参与、諸侯が参加して国是(国の基本方針)を定めるための朝議が5回開かれる(内天皇も2回出席)  
 ○同2月16日 朝彦親王邸で開かれた酒宴の席にて、慶喜「横浜鎖港は是非仕る」と言い切る。その時、久光は慶喜に失望する。

○元治元(1864)年2月28日 西郷、沖永良部より鹿児島へ帰る。  
 ○同3月9日 久光は、朝議を重ねる中で、朝廷、幕府とも古い慣習にとらわれている状況を指摘するも、調整するのが非常に難しいと判断し、各諸侯と参与を辞する。国是會議も解体する。  
 ○同4月18日 久光、帰国の途につき5月8日着。  
 ○同5月7日 將軍家茂も二条城を發し、5月20日江戸に帰着。  
 ○同7月19日 「禁門の変」(蛤御門の変、元治の変とも呼ばれる)  
 ○同7月23日 長州藩追討の朝命が慶喜に伝えられる。  
 ○同8月22日 幕府は毛利慶親、広封父子の官位剥奪の処分を行う。  
 ○同9月15日 西郷は有力諸侯の国政参加構想をもつ勝海舟と面談し、長州の処分に対して強硬論者であったが、長州に対する考え方を改める。

○同10月24日 征長総督徳川慶勝、11月18日総攻撃開始を決めるも、長州問題を西郷に委ねる。  
 ○同12月27日 西郷の周旋運動により長州征討への出兵、戦いを交えることなく終結する。



○元治2(1865)年1月18日 朝廷は長州藩処分について、將軍の上洛を求める。  
 ○同3月2日 朝廷は「永世不朽之國是」を熟評するために再度將軍の上洛をもとめる旨を内達する。これは在京の薩摩藩家老小松家老岩下、側役大久保が協議し、関白二条斉敬、内大臣近衛忠房に働きかけてなされたもの。  
 ○同3月29日 朝廷の要望に対し、幕府は將軍の上洛はないとした前言をひるがえし、長州藩主父子が江戸召致の幕命を拒み続けた場合は將軍が進発するとした。すなわち朝廷(と薩摩)が求めた国是を熟議するための將軍上洛ではな

く、長州藩征討を名目とする上坂となる。  
 ○慶応元(1865)年4月19日 幕府は長州藩征討のため、5月16日將軍が進発することを布達する。  
 ○同5月16日 江戸城を發つた家茂は、5月の終わりに大坂城に入り、同所を第二次長州征討の本營とする。この頃、4月末から5月初めの時点で薩摩藩は征長に非協力の姿勢をとる。  
 ○同6月17日 幕府が長州藩の「処置」の意見をまとめて朝廷に奏上する。その意見とは、長州藩末家毛利元蕃、吉川経幹等を大坂城に召致して、糾問したうえで処分策を決するというものであった。  
 ○同7月27日 この幕命に対し、長州藩は拒絶することに決す。この後、長州藩処分問題はほとんど一歩も進展せず。  
 ○同9月16日 家茂は長州藩征討の勅許を得るため二条城へ移る。  
 ○同9月20日 第二次長州征討の勅許がおりる。  
 ○同9月21日 大久保はこれに納得がいかず、翌日「朝廷は力ギリ」との言葉を投じて、朝彦親王のもとを去る。以後、薩摩藩は「天下万人」

が納得するものこそが正義の勅であるとする勅命観に基づいて行動してゆく。  
 ○同9月26日 西郷は坂本竜馬をとまなつて兵庫を發ち、28日周防上関に着く。西郷はそのまま鹿児島へ向かう。  
 ○同9月29日 竜馬は柳井に上陸し、10月4日長州藩重役広沢と三田尻で面会し、西郷から託された薩摩藩の真意、すなわち薩摩藩が長州藩にこれまでよりも積極的に接近する意思のあることを伝えた。  
 ○同10月4日 帰国した西郷は、久光をはじめとする藩首脳部にこれまでのことを伝える。この時、久光、茂久父子に宛てた毛利敬親、広封長州藩父子からの歩み寄りの親書が届いていた。  
 ○同12月初旬 小松、西郷、大久保在京藩首脳部は黒田了助を山口に派遣して、長州藩を代表しうる人物の上京を求めた。  
 ○同12月27日 木戸孝允は品川弥二郎をとまない三田尻を出港し、翌慶応2年1月7日に大坂につく。



○慶応2(1866)年1月8日 木戸孝允、京都二本松の薩摩藩邸に入る。  
 ○同1月22日 京都二本松の薩摩藩邸で、薩長両藩の密約「薩長盟約」が結ばれる。  
 この時点からちょうど1年5ヶ月後の慶応3年6月22日には將軍職廃止を目標として国家構想も掲げた「薩土盟約」も結ばれる。そしていよいよ10月14日の「大政奉還」、12月9日の「王政復古の政変」へと向かうことになる。



広報委員鹿児島 尾堂友紀

# 第十回(平成28年度)通常総会 福岡市で開催される



総会会場全景

平成28年6月6日(月)、第十回(平成二十八年度)通常総会が福岡市の八幡閣で開催され、来賓及び会員社含めて約140名が出席しました。

通常総会に先立ち『危機管理委員会活動報告』を岸川理事、『平成二十七年度の技術委員会活動報告』を河野技術委員長がプレゼンテーションを交えて報告し、挨拶がありました。

総会では中村副会長が開会宣言、松崎会長及び来賓の国土交通省九州地方整備局・小平田浩司局長から以下の挨拶がありました。



会長挨拶(松崎会長)

「松崎会長の挨拶・要旨」  
 熊本地震対応の実績を踏まえて、業界活動の発展を

復興のために、スピード感を保持して様々な情報提供していく。実際、この協定がこのような早い時期に発動したこと驚きをおぼえているが、災害時における九州地方整備局への全面的な支援のうえで、被災地に復旧・復興の一助となるよう邁進していくので、ぜひ会員各社の協力をお願いしたい。  
 会員増強と技術力の向上へ  
 近年の会員増強施策により、多数の会員増が実現し

## 九州地方整備局・小平田局長挨拶・要旨

### 建設業界の環境は確実に変化してきている



来賓挨拶(小平田九州地方整備局長)

復旧復興の新たなステージへ対応  
 熊本地震が発生し、九州地方整備局をメインに全国の地方局から被災自治体へのリエゾン派遣や災害復旧活

動としてTECIFORC Eを派遣し、全国の職員が結集して被災地への支援を実施している。4月で応急復旧のめどがたち、現在は新たなステージに入った。



3月に3回目の試験を実施した。これまでの3回の試験で90名超のプレコン管理士が誕生し、業界全体の技術力向上に寄与していると考えている。今後も、多数の受講・受験を促していきたい。  
 当協会は平成16年6月に任意団体として設立し、その後、平成19年4月に特定非営利活動法人格を取得。前身の任意団体を発展的に解散し、同6月に第一回通常総会を開催、本日十回目の総会を迎えることができた。諸先輩方の御苦労に思いを馳せつつ、更なる協会活動の発展に向けて会員全社が一丸となって進んで行くので、皆様のご協力をお願いする。

道路関係では国道325号阿蘇大橋や県道・俵山バイパスを熊本県から、また、長陽大橋をはじめとする南阿蘇村道南阿蘇村から権限代行で国が復旧対応を実施することとなった。河川

前頁より

関係では白川・緑川に171ヶ所の被災があり、そのうち11ヶ所が特に緊急性があつたため、応急復旧を実施した。その際には九州コンクリート製品協会からの協力で資材が確保できたことであらためて御礼を申し上げる。今後は、来年5月頃までに本復旧を完了したい。このように、道路・河川関係において、コンクリート製品が必要となるので、一時的な問題はあれ需給のバランス確保に協力をお願いしたい。宅地・住宅においても被害がかなりあるが、現在は罹災証明対応などの段階だが、今後の予防保全の観点からもブロック関連に大きな需要が生じることが予測できる。個人住宅等はこれから本格的な復旧がはじまるので、そのための準備もお願いしたい。

正化や調査基準価格の引き上げ、自治体にも歩切りの廃止要請を実施するなどとして着実に効果をあげていく。  
また「生産性の向上」のために i i C o n s t r u c t i o n を推進している。i i C o n s t r u c t i o n の三本の柱として①ICT技術の積極的活用、②施工の標準化、③コンクリート工の標準化があるが、その中でコンクリート工の標準化については、コンクリート製品業界の技術革新が著しく、社会資本整備の担い手として、旧来の現場打ち工法からプレキャスト工法への進化の中で、建設産業における主要資材・工法としての確固たる地位を占めている。i i C o n s t r u c t i o n の中でもコンクリート製品は重要な位置付けとなっている。このように、建設業界を取り巻く環境が変化しているなかで、九州コンクリート製品協会の役割はますます重要になってくるので、今後も九州地方整備局との連携をお願いしたい。

### 将来の業界環境と技術革新、対策へ

将来予測は難しいが、必ず建設業界を取り巻く環境が変わってくる。確実に予測できることとして人口構成があるが、少子高齢化・人口減少の状況で建設業の担い手不足が課題であり、全省をあげて対策をとっている。まずは「魅力ある職場環境づくり」のために、予定価格の適

### その他の主な報告事項

○議案審議／平成二十七年度の事業及び収支に関する議案、平成二十八年度の事業及び収支に関する議案、定款変更に関する議案すべてが原案通り可決され、役員改選では役員全員の再任を承認可決しました。

○正会員新入会員の和光コンクリート工業(株)金丸社長と準会員入会のコーアツ工業(株)出口取締役、日新コンクリート工業(株)東常務が入会の挨拶をしました。

○今年3月に実施したプレコン管理士試験における最優秀成績者表彰(4・5面に詳細)で、最高得点者の谷畑保氏(株式会社ヤマウ)が表彰され、最後に茂森副会長の閉会宣言で通常総会が閉会しました。

○総会終了後/株式会社とはぎ代表取締役 白駒妃登美氏による講演「歴史が教えてくれる日本人の生き方」戦国武将に学ぶリーダー像」

○懇親会開催/下瀬理事の挨拶と来賓紹介。K y u p e c 学 界 正 会 員 の 九 州 大 学 ・ 濱 田 教 授 が 乾 杯 の ご 発 声 。 最 後 に 同 じ く K y u p e c 学 界 正 会 員 の 九 州 共 立 大 学 ・ 牧 角 教 授 に 中 締 め を い た だ き 、 多 数 の 参

加者で盛会のうちに終了。  
○翌日6月7日(火)九州かたまり会第二十五回懇親ゴルフコンペが夜須高原カントリークラブで開催され、本総会のプログラムが全て終了しました。



### 平成27年度プレコン管理士試験実施報告

平成28年3月23日(水)、グラメンツ熊本(熊本県益城町)にて平成27年度プレコン管理士試験が実施されました。今回は3回目の試験で、受験資格要件は平成26・27年度のいずれかの講習会を受講した者とし、対象となる85名が受験しました。

特定非営利活動法人 <b>九州コンクリート製品協会</b>	第10回 (平成28年度) 通常総会プログラム
日時	平成28年6月6日(月) 15時00分～16時45分
場所	八仙閣(福岡市博多区)
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>開会宣言(中村副会長)</li> <li>会長挨拶(松崎会長)</li> <li>来賓挨拶(国土交通省九州地方整備局小平田局長)</li> <li>定足数の報告</li> <li>正会員38社中 出席33社 表決委任社5社</li> <li>学 界 正 会 員 9 名 中 出 席 2 名 欠 席 7 名</li> <li>賛助会員23社中 出席19社 表決委任社4社 出席2社</li> <li>資料の確認</li> <li>議長の選出</li> <li>議事録作成者および署名人の指名</li> <li>議事</li> <li>第一号議案 平成二十七年事業報告</li> <li>第二号議案 平成二十七年収支決算・会計監査報告</li> <li>第三号議案 定款変更(案)</li> <li>第四号議案 役員改選(案)</li> <li>第五号議案 平成二十八年度事業計画(案)</li> <li>第六号議案 平成二十八年度収支予算(案) 第七号議案 総会決議事項の委任に関する件</li> <li>平成27年度プレコン管理士試験最優秀者表彰</li> <li>第25回九州かたまり会開催案内</li> <li>閉会宣言(茂森副会長)</li> </ol>

平成28年3月23日(水)、グラメンツ熊本(熊本県益城町)にて平成27年度プレコン管理士試験が実施されました。今回は3回目の試験で、受験資格要件は平成26・27年度のいずれかの講習会を受講した者とし、対象となる85名が受験しました。



### 「薩長同盟」に至るまでの薩摩藩の動き

前頁より  
さらに車を進めると真玉海岸が目の前に開けてくる。ここは大分県で唯一、水平線に沈む夕陽をみることが出来る海岸。日本の夕陽百選にも選定されている。海面の夕陽と干潟の縞模様、コントラストがすごく幻想的なのだが、きょうは赤色が映えてないなあ。

前回まで薩摩藩の英国留学生について調べてきましたが、今回は年代と月日を追って幕末の薩摩藩の動きを整理してみました。(幕末政治と薩摩藩)著者 京都大学名誉教授 佐々木克より



○文久元(1861)年10月 島津久光 国父となる。

○文久2(1862)年4月16日 久光、小松帯刀、大久保利通を藩兵約1千を率いて、初めて京都に到着。上京の目的である「公武合体、皇威伸興、幕政変革」の意見書を近衛家に提出す



これらのスポットを結ぶ国道213号線の約20キロの海岸線沿いの道は、恋叶ロードと呼ばれ、豊後高田市一押しコンテンツなのだ。恋愛よりも終活が必要な私でも、結構楽しめるホットなドライブコースである。今度はおばさんグループで、テンション高く訪れるかな、恋愛成就はさておき盛り上がりそうだな。

### ○同9月

○同9月 久光の上京を要請する天皇の宸翰が近衛閑白に下され、内々に久光にも京都守護職に就任させたい内意も告げられた。

○同11月3日 久光、守護職就任を内諾す。

○同12月5日 將軍後見職慶喜は江戸城で勅使三条実美に將軍上洛を来春2月にすること、久光の守護職への就任を承諾する。このことは、幕府も久光を必要とし、久光の上京を頼みとしていたからであり、年末から翌年にかけて朝廷から、また慶喜、春嶽、容堂等の江戶幕府からも久光の上京を求める声があがった。

○同12月20日 久光は、大久保を近衛邸に訪問させ、現在着手した海防を初めとした武備充実に専念したく、また生麦事件の後始末もあり、今は鹿児島を離れたい。しかし、翌年早々に発足することを伝え、更に將軍上洛を見合わせること等の建言書を差出させる。



○文久3(1863)年1月22日 儒者池内大学、尼崎で殺害され、その耳が中山忠能、正親町三条実愛邸に投げ込まれる。攘夷強硬論の志士による。

○同1月23日 攘夷強硬論者に批判的で久光と強調していた朝廷の実力者である閑白近衛忠熙が職を辞し、27日には中山、正親町三条の両議奏も辞職する。これにより三条実美をリーダーとする攘夷強硬論の公家が朝議を取り仕切り、朝廷外では長州、熊本、土佐、水戸各藩の急進的攘夷論を唱える志士の集いに長州藩世子毛利定広が出席していた。

○同1月25日 このような状況のなか、容堂入京。また、春嶽も2月4日に着京するも、もはや朝議の流れを変えられる状況にはなく、更に久光の京都守護職への任命も立ち消えとなる。1月末の朝廷の状況は、攘夷強硬論の志士に脅迫されて委縮しているとの大久保の報告を受けて久光は、もはや時期を失したと判断し、出京を遅らせる。

○同3月4日 將軍家茂入京

○同3月14日 久光、2回目の入京で直接近衛邸に向かい、近衛父子、鷹司閑白、中川宮、慶喜、容保、容堂(春嶽、総裁職を辞しておらず)の有力者に朝廷が外部の圧力で動かされることのないようにするための改革である14カ条(前年9月21日に近衛父子に提出した12カ条建白と基本的に同じもの)について意見を述べる。この意見に対して誰からも何の答えもなく、翌日も一つの反応もなかった。彼等が黙してしまっほど、攘夷強硬論者が京都の政局を圧していた。

○同3月18日 近衛と鷹司の引きとめるのを振り切って、京都から大坂へうつり、20日大坂を発つ。わずかに4日間の京都滞在であった。

○同5月20日 「朔平門外の変」過激派の公家の重鎮・姉小路公知、朔平門で暗殺される。薩摩藩士田中真兵衛、弁明せず自刃する。

○同6月9日 將軍家茂、京都を發ち江戸に帰る。

○同7月2日、4日 「薩英戦争」

○同7月12日 久光に上京を命じた勅(御沙汰書)が出された。

○同8月18日 「8月18日の政変(文久の政変、堺町門の変とも呼ばれる) 次頁につづく

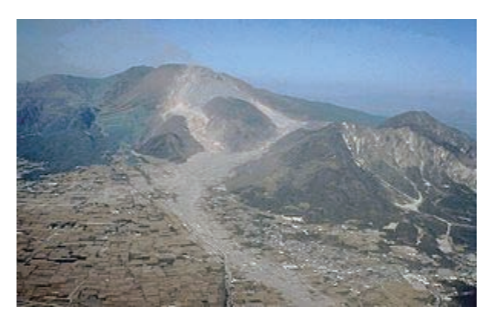
中前頁より

以上が全国でも上位にランキングされています。私たちの馬渡商会有る武雄市は、佐賀牛、夢しずく(佐賀の)



# 島原大変肥後迷惑

災害のなかでも地震、火山噴火ほど恐ろしいものはない。台風や火事なら予測がつくし、経験上対処の仕方がある。しかし地震と噴火はまるで人間を無力にしてしまう。今から225年前に肥前の国島原で起こった噴火を調べてみようと思う。



雲仙普賢岳(左)と眉山(右)

有感地震が多発していた肥前の国島原で、寛政4年4月1日(1792年5月21日・旧暦雲仙普賢岳から火が吹き溶岩の流

と死者は島原領で10,139人、天草343人、肥後3郡4,653人、流失家は島原領3,347軒、天草725軒、肥後3郡2,252軒とある。その他負傷者、牛馬の死、田畑の荒れ、流失船、流失・損害の蔵など200年以上も昔の資料が詳細に調べられている。

島原地方には今も多くの絵図や古い記録が残されているから後世の研究者が取り組むことができるのである。(以上参考資料写真:ウイキペディア「島原大変肥後迷惑」)

津波教訓碑には側面に「同じような津波の時は子供の手を引け、老人を背負い、財産は打ち捨てて避難を優先し、平時から逃げ場を確保する」とある。また供養墓は海岸に漂着した名前が分からない見知らずの人を手厚く葬っているという。当時の人々のやさしい気持ちを読み取れて懐かしい気持ちになる。

普賢岳は平成2年(1990年)から7年にかけて火山活動が再び活発になり43名の死者、行方不明者を出す大惨事を起こして平成新山が誕生することになった。古い記録は自然科学的な資料として大いに大切だが人文科学的にも当時の人々の暮らしや心のあり様もじかに教えてくれる貴重な資料である。「知ること」「残すこと」の大切さを伝えてくれる。

気象協会からの熱中症情報で「危険」と発表があった、朝も早よからやたらと暑い8月の休日。退屈のぎに大分県豊後高田市の海岸線に行くことに――



再び車を走らせると、出てくるのは粟島公園。ここは桜の名所として有名な場所。公園の入り口付近に見晴台と縁結びのモニュメント「結」が置かれている。公園の奥には海に突き出た岩窟に社殿がある。粟島神社があり、ここは縁結びの神としてかなり有名。女性の願いなら必ずひとつは叶えてくれるらしい。因みに祀られているのは一寸法師のモデルの、小彦名命である。そうそう、公園から神社に向かう途中の展望所に「縁」という愛錠モニュメントがあったよ。そこにハート型の鍵を掛けるんだって。ラブリーだねえ。



route213 暑いものは熱いものを 大建「ソフリート」(株) 総務部 生野美和

中前頁より

## 平成27年度 プレコン管理士試験合格者

平成27年度プレコン管理士試験の合格者は以下の通りです。(氏名のみ掲載・50音順)

- 最所隆樹 / 岩野洋平
- 稲村昌三 / 野口聡士
- 長尾明寿 / 島村敏史
- 山口幸一郎 / 青木浩
- 角田正樹 / 山本科人
- 菊池勇士 / 中村宣央
- 富松和広 / 谷畑保
- 佐藤朋宏 / 木村雄一郎
- 福島和弘 / 豊泉祐二
- 菊野あかり / 森山典明
- 松元千加子 / 寺師博文
- 山下朋佳 / 幸記美雄
- 川上義広 / 日野利治

今年度合格者26名

## 【最優秀成績者】 谷畑 保氏

※登壇時のコメント(要約)

プレコン管理士試験はコンクリート技術等と比べてジャンルが多岐にわたることが理解できた。この試験では全てのジャンルを網羅しないと合格できない難しい試験だった。その結果が合格率30%ということに表れたのではないかと。弊社・大分工場からは3名が合格することができ



プレコン管理士試験最高得点者 (ヤマウ・谷畑 保氏: 右)

た。これは、各人が危機感をもって勉強したことの結果だと考えている。私ごとだが、試験直前に病気になることは避けたかった。で、更に勉強した結果がこの成績につながったと思う。プレコン管理士登録をもってプレコン管理士となるが、これがゴールではなく、ここからがスタートであるということに銘じている。プレコン管理士が各社に貢献することはもちろん、業界の使命である社会貢献に寄与できるように、より一層努力していきたい。



最高得点者スピーチ (ヤマウ・谷畑 保氏)



閉会宣言 (茂森副会長)



会計監査報告 (柏木監事)



総会議案説明 (岸川理事)



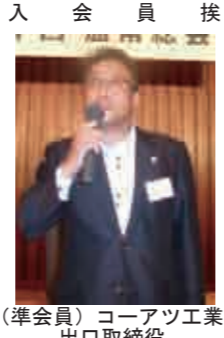
閉会宣言 (中村副会長)



通常総会運営スタッフ



(準会員) 日新C工業 東常務



(準会員) コーアツ工業 出口取締役



(正会員) 和光C工業 金丸社長



通常総会司会 (松山総務企画委員)



基調講演御礼 (茂森副会長)



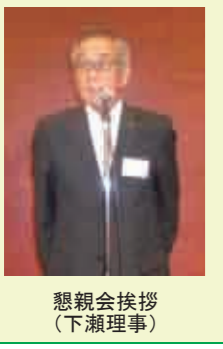
基調講演講師 (ことほぎ・白駒氏)



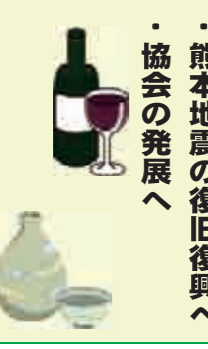
技術委員会活動報告 (河野技術委員長)



危機管理委員会活動報告 (岸川理事)



懇親会挨拶 (下瀬理事)



団結へ乾杯!! 熊本地震の復旧復興へ 協会の発展へ



懇親会全景



次頁につづく



来賓挨拶 (吉崎 収氏)



乾杯の発声 (九州大学・濱田教授)



中締め (九州共立大学・牧角教授)



懇親会司会 (森総務企画委員)



# 第25回九州かたまり会

## とき／平成28年6月7日(火) ところ／夜須高原カントリークラブ(福岡県筑前町)



九州かたまり会 参加者集合写真



大会連覇を達成した岸川健太郎氏

### 第25回九州かたまり会 成績表

順位	氏名	out	in	gross	HDCP	Net
優勝	岸川 健太郎	46	53	99	30.0	69.0
準優勝	出口 稔	43	42	85	13.2	71.8
3位	要 秀和	40	48	88	15.6	72.4
4位	入江 俊介	37	37	74	1.2	72.8
5位	下瀬 博貴	41	44	85	12.0	73.0
6位	村尾 和則	51	38	89	15.6	73.4
7位	側島 福一	47	51	98	22.8	75.2
8位	大野 雅由	38	41	79	3.6	75.4
9位	藤川 正治	46	44	90	14.4	75.6
10位	濱崎 輝実	43	46	89	13.2	75.8
11位	権藤 勇夫	47	42	89	13.2	75.8
12位	西堀 亘	52	47	99	22.8	76.2
13位	下瀬 裕一	41	44	85	8.4	76.6
14位	松山 隆文	51	46	97	20.4	76.6
15位	茂森 拓	46	48	94	16.8	77.2
16位	馬渡 洋三	48	51	99	21.6	77.4
17位	蓑下 弘光	48	51	99	21.6	77.4
18位	茂森 潔	47	42	89	10.8	78.2
19位	天野 重治	47	50	97	18.0	79.0
20位	竹波 勝正	46	49	95	15.6	79.4
21位	浅田 孝司	59	56	115	33.6	81.4
22位	新福 昇二	50	56	106	24.0	82.0
BB賞	中村 健一郎	51	52	103	20.4	82.6
敢闘賞	武居 直人	45	57	102	19.2	82.8

**D** 天野重治、岸川健太郎、下瀬裕一  
**N** 側島福一、岸川健太郎、権藤勇夫、竹波勝正、大野雅由②、濱崎輝実、馬渡洋三  
**G** 入江俊介

【総評】  
 梅雨の合間の晴れ間に恵まれ、第25回九州かたまり会懇親ゴルフコンペが福岡県・夜須高原カントリークラブで開催され、6組24名の参加者が日頃の鍛錬の成果を披露しました。コースの芝が青々と輝く初夏を思わせる天候の中、名前通りの高原コースで、ところどころ緩やかな打ち上げ・打ち降ろしがありましたが、広々としたフェアウェイで気持ち良いラウンドとなりました。午後からは汗ばむほどの快晴となったラウンドで、並みいる上級プレーヤー達を制して優勝したのは岸川社長。

アウト46・イン53のトータル99での受賞となりましたが、同氏は前回も同スコアで優勝しており、前人未到の『九州かたまり会連覇』を達成しました。また、新入会員の出口取締役がアウト43・イン42のトータル85という安定したスコアで準優勝を勝ち取りました。

次回の『第26回九州かたまり会懇親ゴルフコンペ』は例会翌日の10月27日、佐賀県で開催予定です。岸川社長の『3連覇』を阻止することができるのか？非常に注目のコンペとなるかと思えます。是非、皆様の多数のご参加をお待ちしております。



## がんばろう熊本

小倉セメント製品工業株式会社 安山修二

2016年4月14日のマグニチュード6.5の地震を前震、続く4月16日のマグニチュード7.3の地震を本震とする熊本地震に関して、海外がみた反応を含めた記事がありましたので紹介させていただきます。

極限状態におかれた時、人間の本性本質が現れるものです。今回、まさに極限状態に置かれた日本での地震、海外ではこの悲劇の中で、日本人の民度の高さに驚愕しているようです。

熊本地震直後の被災地から食料や水など支援物資の不足を訴える声やネット上で相次ぎました。

西の方にも目を向けて下さい  
 お年寄り、小さい子中心に水、食料を配っています。それでも全然足りません。

しかし、大動脈である九州自動車道が寸断され、限られた道でしか物資を送れず、支援物資が集まるほど、渋滞が悪化。さらに、まずいことに食糧、水不足を受け、被災地に支援物資が集まる一方、分配で作業が混乱し、被災地に行き渡らない状況が起きている。学校の校庭に「飲み水を下さい」「米、水、保存食H.E.L.P.」「菓子、パンS.O.S」と文字が書かれていました。

(私も震災後の8月に九州自動車道の益城熊本空港から嘉島JCT間を走行しましたが、対面通行の反対側道路の余りの悲惨さに身震いがしました。高速道路の路面がうねって波打っている状態に、声も出ませんでした。)

■熊本市立出水中学校 水も電気もありません。持ってきた食料、飲物にも限りがあります。どこからも支援が来ていません。よろしくお願ひします。

■熊本市立西山中学校 皆さん

き、さらに、悪循環にも陥っている。食料、水も不足しているが、家を追い出され、避難所や車中泊生活もつらく、風呂にも入れず、トイレも不便。

プライベート空間が皆無となり、一緒に避難生活をしていた方で、エコノミー症候群やストレスが原因で、心肺停止し、亡くなられた方もいるという――

まさしく極限状態。しかし、日本人はこの苦しい状況下においても、救援物資を奪い合いもせず、整然と列をなして配給を受けていた。若い大人が老人に優先的に食事や水を譲り、老人は子供に譲る。助け合いの精神のもと、強者が弱者を優先して支え合っている。高貴な日本人の姿。

海外では、応援のメッセージと共に、「高潔な国民だ」、「辛抱強い」、「日本人には高貴な忍耐力と克己心がある」、「極限状態においても日本人は冷静で礼儀正しい」と絶賛する声やネットの書き込みに相次ぎました。

海外メディアでは、「驚くべきこと、他の国ならこうした状況で簡単に起こり得る混乱や暴力、略奪などの報道が日本では、いまだに1件もない」と、しめくくるように報じていました。

また、熊本では、瓦の家が多く



比較的、地震に耐久性のない建物が多い県でもあるにも関わらず、今回、同時期に起き、死者600人を超えるエクアドル地震の建物の崩壊度と見比べ、日本の耐震技術の力に驚愕する声も寄せられているようです。

どんな状況下でも隣人を尊敬し、自分よりも他者を優先して思いやることのできる民族。それが日本人。「飲み水ありがとう。がんばるけん」と校庭に書かれた言葉が印象的でありました。

最後に、熊本地震で亡くなられた被災地の皆様のご冥福をお祈りいたします。



## ふるさと納税を活用しては？

株式会社馬渡商会 総務部 飯田哲也

2008年4月30日に地方税法の一部を改正する法律が施工され、地方に「寄附金税額控除」が出来るようになり、その後平成23年に改正され現在に至っている。それにより何処でも誰でも寄付という形において納税を行う事が出来るようになりましたが、まだまだ私共のくらしの中において活用した方は乏しか知らないのでは調べてみましょう。

2015年1月1日〜同年12月31日に5団体65,000円寄付した場合

○Aさん  
 年収600万円世帯夫婦  
 配偶者主婦  
 職業：サラリーマン

↓特産品がAさんへ  
 寄付 10,000円↓A町

↓特産品がAさんへ  
 寄付 20,000円↓B市

↓特産品がAさんへ  
 寄付 20,000円↓C市

↓特産品がAさんへ  
 寄付 10,000円↓D町

↓特産品がAさんへ  
 寄付 5,000円↓E町

ちなみに佐賀県で、ふるさと納税ランキングにおいて全国上位ランキングは6位・伊万里市。特産の伊万里牛や伊万里梨をメインにした御礼の品、3位上峰町2015年町部の部全国第一位、取れたての野菜セットや佐賀牛をメインにした御礼の品、殿堂入り・玄海町こしひかり、玄界灘の海の幸をメインにした御礼の品

確定申告後、2016年3月〜4月にかけてAさんの口座に6,400円が還付金として返金されます。2016年5月頃Aさんの会社に年間の住民税通知が送られ56,700円が控除されます。※合計で63,000円が還付・控除されます。

寄付して特産品で美味しい物をたくさん頂いて、さらに還付金を住民税控除が受けられるとなると、これから活用したいと思えるのではないのでしょうか、現在は確定申告をしなくても良いやり方もあり簡単に行えますので、是非一度お試ししてみたいかがでしょうか。

今年4月に発生した「平成28年熊本地震」に伴い、当協会では九州地方整備局との防災協定に基づいた活動を実施しておりますが、過去の災害対応に関してすでに実績がある（公社）全国宅地擁壁技術協会でも同様に行政からの要請に応じて活動されています。ここでは、特集として同協会が認定する『被災宅地危険度判定士』が今回の震災においてどのような活動をし、実務にあたってどのような課題があったかを情報提供いただきましたのでご紹介いたします。特に課題としてあげられた内容は、当協会・防災対策本部が活動するにあたって必要と考えられることであり、今後の協会運営に反映できるよう危機管理委員会で議論を深め、速やかに対策を実施していきますので、会員の皆様におかれましても、ご理解ご協力をいただきますよう、お願い致します。

1995年1月17日阪神・淡路地方をM7.3の大地震が襲った。周期的に起こるといわれている関東大震災や南海トラフ地震等が心配されていた中で、あまり地震に縁がないと思われていたこの地域において発生したことは、都市を襲う大地震の恐怖を現実のものとして感じた最初の出来事であった。

また、2011年3月11日東日本を襲ったM9.0の大地震。今度は地面の揺れによる被害だけではなく、大津波による甚大な被害は忘れられない出来事である。

日本では、これらの他にも阪神・淡路大震災の後、今回の熊本地震が発生するまでの間に41回にもものぼる震度6弱以上を観測した地震が発生したが、九州では1997年5月鹿児島県薩摩地方を震源とする鹿児島県北西部地震と、2005年3月福岡県北西沖を震源とする福岡西方沖地震の2度しか大地震は発生していなかった。

このような状況の中、自分では何の根拠もなしに、次に起るの発生確率が高い関東地方や東海地方ではないかという気持ちがあったことは事実である。ましてや熊本県は地震災害が少ない県として企業誘致に力を入れていたこともあり、熊本地方で今回のような大地震が起きようとは夢にも考えていなかった。そのため、全国宅地擁壁技術協会九州支部においても、大災害に対する取り組みをやらなくてはいけないと思いつつも、つい後回しにしていた状況であった。

今回の熊本地震を受け、大地震は日本全国いつでも発生してもおかしくないという考えのもと、熊本地震の経験を踏まえた事前の準備を早急しておく必要があると痛感した。今回の地震で全国宅地擁壁技術協会九州支部が経験した事を皆さんにお知らせすることで、自分たちが今後何をすべきか考えるための一助となればと思う。

■2016年4月14日午後9時26分の前震と4月16日午前1時25分に発生した本震を受け、熊本県は甚大な被害を被った。

この地震を受け、全国宅地擁壁技術協会の本部へ、17日に国土交通省都市局都市安全課より被災宅地危険度判定実施本部への派遣要請が入った。18日に協会本部より連絡を受けた九州支部は、派遣準備を整え支援活動に入った。以下に支援活動の期間、内容等についてまとめた。



(公社)全国宅地擁壁技術協会 危機管理委員会  
被災宅地技術研究会委員  
櫻木 喜久

被災宅地危険度判定実施本部



各県からの被災宅地危険度判定士 国交省、熊本県、UR、宅協の  
支援者出発前のミーティング 合同ミーティング

●支援活動1

期間	4月19日～5月1日
派遣人員	2チーム 6名
派遣先	熊本県被災宅地危険度判定実施本部

支援内容：被災宅地危険度判定作業に対する  
事前調査および情報収集

被災宅地危険度判定作業は基本的に調査であり全域を調査しなくてはならないが、今回被災市町村の全域を廻るには時間と人員の関係から不可能であると判断され、前もって調査範囲を特定し、そこへ集中的に判定士を派遣し実施するというやり方で行われた。

実施本部内における我われの仕事は、判定調査の範囲を特定する作業をURチームとともにやり、宅協チームは現地へ実際に行き被災状況をみて判定士の活動範囲を決めるための情報収集を行った。

⇨ 次頁に続く

賛助会員紹介コーナー  
**PR**

**NIKKO 日工株式会社**

DASH-Hyper  
DASHのDNAを継承、新たな流動の構築

NIKKO  
「人・地球・環境」への貢献  
日工株式会社  
www.nikko-net.co.jp

Run Around Technology

KLEEMANN

ever onward

日工株式会社

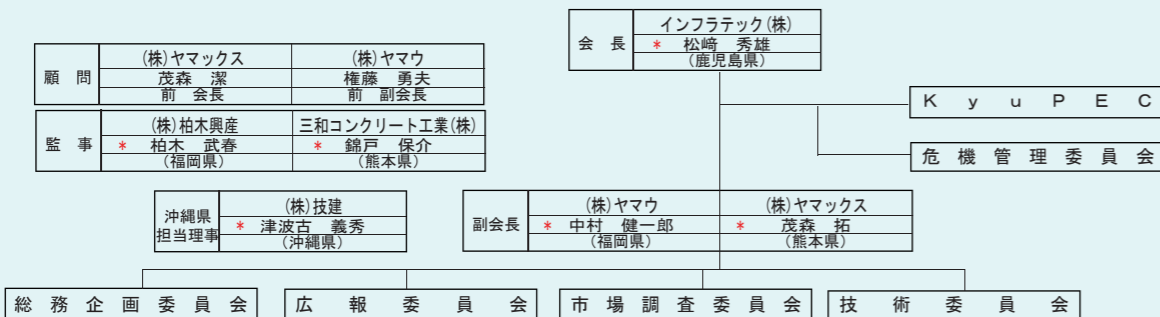
九州支店 〒816-0922 福岡県大野城市山田3丁目10番24号 TEL : (092) 574-6211  
南九州営業所 〒892-0832 鹿児島県鹿児島市新町1番18号 TEL : (099) 219-9377

特定非営利活動法人九州コンクリート製品協会

平成 28 年 10 月 1 日現在

# 組 織 図

\* は協会理事・監事



## 【理事会及び各委員会名簿】

理事 会		総務企画委員会		広報委員会		Ky u P E C	
会長	インフラテック(株) * 松崎 秀雄 (鹿児島県)	委員長	不二高圧コンクリート(株) * 岸川 健太郎 (熊本県)	担当理事	(株)馬渡商会 * 馬渡 洋三 (佐賀県)	委員	九州共立大学 教授 牧角 龍憲 (福岡県)
副会長	(株)ヤマウ * 中村 健一郎 (福岡県)	副委員長	不二コンクリート工業(株) * 入江 俊介 (佐賀県)	委員長	小倉セメント製品工業(株) * 上田 泰博 (福岡県)	"	九州大学 教授 濱田 秀則 (福岡県)
副会長	(株)ヤマックス * 茂森 拓 (熊本県)	委員	中里産業(株) 中里 大作 (福岡県)	委員	安永セメント工業(有) 安永 大志 (福岡県)	"	福岡大学 助教 橋本 紳一郎 (福岡県)
理事	(株)九コン * 下瀬 博貴 (福岡県)	"	大野コンクリート(株) 大野 雅由 (福岡県)	"	H.O.C(株) 天野 重治 (長崎県)	"	佐賀大学 教授 伊藤 幸広 (佐賀県)
"	小倉セメント製品工業(株) * 上田 泰博 (福岡県)	"	共和コンクリート工業(株) 森 英樹 (福岡県)	"	南九州コンクリート(株) 田畑 和章 (熊本県)	"	長崎大学 教授 原田 哲夫 (長崎県)
"	不二コンクリート工業(株) * 入江 俊介 (佐賀県)	"	大協コンクリート(株) 藤川 正治 (佐賀県)	"	大建コンクリート(株) * 村上 博信 (大分県)	"	熊本大学 教授 村上 聖 (熊本県)
"	(株)馬渡商会 * 馬渡 洋三 (佐賀県)	"	インフラテック(株) 松山 隆文 (鹿児島県)	"	鹿児島共和コンクリート工業(株) * 尾堂 友紀 (鹿児島県)	"	大分大学 教授 佐藤 嘉昭 (大分県)
"	不二高圧コンクリート(株) * 岸川 健太郎 (熊本県)	市場調査委員会		技術委員会		"	宮崎大学 名誉教授 中澤 隆雄 (宮崎県)
"	(株)池永セメント工業所 * 池永 征司 (大分県)	担当理事	(株)ヤマウ * 中村 健一郎 (福岡県)	担当理事	(株)ヤマックス * 茂森 拓 (熊本県)	"	鹿児島大学 教授 武若 耕司 (鹿児島県)
"	大建コンクリート(株) * 村上 博信 (大分県)	担当理事	(株)池永セメント工業所 * 池永 博信 (大分県)	担当理事	(株)九コン * 下瀬 博貴 (福岡県)	危機管理委員会	
"	九州中川ヒューム管工業(株) * 酒井 久典 (宮崎県)	委員長	本田工業(株) 本田 智 (福岡県)	担当理事	九州中川ヒューム管工業(株) * 酒井 久典 (宮崎県)	委員長	インフラテック(株) * 松崎 秀雄 (鹿児島県)
"	鹿児島共和コンクリート工業(株) * 尾堂 友紀 (鹿児島県)	委員	(株)馬渡商会 平川 康司 (佐賀県)	担当理事	(株)柏木興産 * 柏木 武春 (福岡県)	副委員長	(株)ヤマウ * 中村 健一郎 (福岡県)
"	(株)技建 * 津波古 義秀 (沖縄県)	"	三和コンクリート工業(株) 柴田 広隆 (熊本県)	委員長	インフラテック(株) 河野 道文 (鹿児島県)	副委員長	(株)ヤマックス * 茂森 拓 (長崎県)
監事	(株)柏木興産 * 柏木 武春 (福岡県)	"	(株)ヤマウ 吉田 晋也 (大分県)	副委員長	(株)ヤマウ 山本 康雄 (福岡県)	委員	(株)九コン * 下瀬 博貴 (福岡県)
"	三和コンクリート工業(株) * 錦戸 保介 (熊本県)	"	(株)ヤマウ 木上 八市郎	委員	麻生商事(株) 隈田 弘幸 (福岡県)	"	小倉セメント製品工業(株) * 上田 泰博 (福岡県)
		"	鹿児島共和コンクリート工業(株) 村永 良一 (鹿児島県)	"	(株)ヤマウ 田中 圭司 (福岡県)	"	不二コンクリート工業(株) * 入江 俊介 (佐賀県)
		"	(株)ヤマックス 木田 稔乙 (長崎県)	"	(株)馬渡商会 佐口 政人 (佐賀県)	"	不二高圧コンクリート(株) * 岸川 健太郎 (熊本県)
		"		"	H.O.C(株) 内田 展郎 (長崎県)	"	大建コンクリート(株) * 村上 博信 (大分県)
		"		"	(株)ヤマックス 松田 学 (熊本県)	"	九州中川ヒューム管工業(株) * 酒井 久典 (宮崎県)
		"		"	(株)ヤマックス 松本 冬樹 (熊本県)	"	鹿児島共和コンクリート工業(株) * 尾堂 友紀 (鹿児島県)
		"		"	(株)池永セメント工業所 野下 正吾 (大分県)	"	(株)技建 * 津波古 義秀 (沖縄県)
		"		"	九州中川ヒューム管工業(株) 日高 聖治 (宮崎県)		

**CONPAS** はインターネットでも閲覧可能です!!

九州コンクリート製品協会

九州コンクリート製品協会HPより  
Web Conpasのサイトに移動して下さい。

**本紙への  
ご意見・ご感想を!!**

本紙Conpasへ、皆さまの率直なご意見やご感想をお聞かせ下さい。これからの編集の参考にさせていただきます。

広報委員会

**投稿 歓迎!!**

広報委員会では会員の皆様からの投稿をお待ちしています。情報、意見、エッセイ、漫画など、内容は自由です。お気軽にお送りください。なお、紙面の都合上、原稿の一部を削除、変更したりする場合がありますが、その時はご了承ください。

掲載された方には薄謝を遣います

特定非営利活動法人  九州コンクリート製品協会事務局  
熊本市中央区水前寺3-9-5  
(株)ヤマックス内  
(〒862-0950)  
TEL 096-381-8999  
http://www.k-conpas.jp

## 前頁より ●支援活動2

期 間	5月8日～5月13日
派遣人員	3チーム 8名
派遣先	南阿蘇村災害対策本部

支援内容： **判定期間中住民からの判定作業に関する質問等への対応**

南阿蘇村災害対策本部内に常駐して、被災宅地危険度判定作業に対する電話や訪問等による相談が入ったときの対応を行う業務だったが、実際には数件の相談のみで終了した。これは宅地判定の前に行われていた応急危険度判定(建物判定)の時に役場へ問い合わせが殺到していたということであり、今回もそれと同じような作業だったということで住民の理解が進んでいたため、問い合わせが少なかったものと推察する。

## ●支援活動3

期 間	5月8日
派遣人員	熊本県、UR、宅協による混成チームへ1名
派遣先	熊本県被災宅地危険度判定実施本部

支援内容： **阿蘇市における被災宅地危険度判定実施の必要性についての調査**

阿蘇市は他の市町村に比べ地表面に断層が現れているところが非常に多く、それに伴った家屋や宅地被害が多く見受けられた。そのような中、今回の事前調査は、前もって被害が多そうなところをピックアップした後、そこを中心に見て回った。

その調査結果を元に、実施本部にて国交省、熊本県、UR、宅協で打ち合わせた結果、被災している1軒1軒は大きな被害を受けていることは判明した。しかし、その被害は点在的で、被害宅地を中心とした面的な広がりやの被災ではないことから、全体的な被災宅地危険度判定は行わず、被災箇所からの今後の個別依頼で対応することになった。

## ●支援活動4

期 間	5月9日
派遣人員	UR、宅協による混成チームへ1名
派遣先	阿蘇市災害対策本部

支援内容： **避難住民の空き公営住宅への入居可否についての調査**

相談内容は、阿蘇市の空き公営住宅において、地震により擁壁や地盤等に変状がみられる箇所への入居が可能かどうかの調査依頼で、UR、宅協の混成チームにて対応した。

実際に現地を案内してもらい見て回ったが、ここでは表面的なことしか確認できなかった。そこで、チーム内で現状を客観的に洗い出し、それに対するリスクを阿蘇市へ伝えるという対応をした。



益城町で被災した擁壁を調査する被災宅地危険度判定士



## ●支援活動5

期 間	5月10日
派遣人員	1チーム 3名
派遣先	益城町災害対策本部

支援内容： **仮設住宅建設用グラウンドの調査**

町が仮設住宅建設用に準備していたグラウンドにクラック等が発生したため、その使用可否について調査を行った。

擁壁、法面、宅地地盤について、被災宅地危険度判定マニュアルに沿った判定を行った結果、危険度大という判定結果を益城町へ伝えた。

## ●支援活動6

期 間	5月10日
派遣人員	1名
派遣先	佐賀県

支援内容： **佐賀県主催の被災宅地危険度判定士養成講習会へ講師派遣**

佐賀県では今回の熊本地震に対する災害支援の一環で、危険度判定士を発災日より1ヶ月を目処に第1陣として派遣していたが、二次支援要請等が来た時のことを考慮し、判定士の数を急遽増やすことになり、臨時講習会を開催することとなった。突然の開催決定であったが、当日は105名の受講者が集まり、そのうち新規講習者は73名であった。

■全国宅地擁壁技術協会では、過去に発生した中越地震や東日本大震災などの経験から様々な準備を行っていたが、今回初めて九州支部として支援活動を行って、支部としての今後の課題が数多く浮き彫りになった。協会で取組むべきと思った主な課題について以下にまとめる。

次頁に続く



⇨ 前頁より

### ★緊急時における支部内の連絡体制

全国宅地擁壁技術協会九州支部では、通常連絡網等の整備はしているが、熊本地震という非常時においては十分に機能していたとは言い難い状況であった。具体的には今回のように緊急に各社の登録判定士の方々へ、連絡を取る必要がある場合の手順を決めていなかったため、参加要請連絡に手間と時間がかかってしまった。また、リストには各社の担当者が記載されているが、その担当者に連絡が入った時、担当者は何をするのかという理解には至っていない。連絡をもらった担当者の役割について理解をはかっていく必要があると感じた。今後には備え、早急に協会内部の連絡体制を整え、それを年度ごとに周知させていくという取り組みが大切であろう。

### ★緊急時における支部内での必要な備品の整備

国交省や県から支部に対して支援要請が入れば、当然支部活動の一環としてやれる範囲の活動をしなくてはならない。そのためには各社から派遣された協会員がスムーズに活動できるよう、あらかじめ必要と思われる備品をそろえておいた方がよい。

### ★被災宅地危険度判定に対する積極的な広報活動

今回の支援では、実際の判定活動を行う前の予備調査という業務を担ったが、現地に行くと住民の方々には不安を抱えて生活しており、少しでも情報が知りたいという声かけをたくさん受けた。その度に宅地の危険度判定について説明し理解を頂くようにした。災害が起きたときには何のために被災宅地危険度判定を行うのかというこ

とを、平時から住民の方々へも広報しておく必要性を強く感じた。

### ★相談窓口業務に対する具体的支援方法について

今回の支援活動を行っているときに、相談窓口業務の開設について、国交省や熊本県・熊本市から相談を受けた。ただ今回は、発災後1ヶ月を過ぎての窓口業務についての相談であったため、協会だけの窓口を設けても、あまり意味がないとの返答をした。理由は、被災者の方々が相談したい内容は時間とともに刻々と変わっていくと考えられるためである。最初のうちは危険度判定の内容についての相談が主体と思われるが、ある程度落ち着いてくると自分の土地に戻って生活していいのか、どのような補修をすればいいのか、補修するならどこに工事を頼めばいいのか、工事費用はどれくらいかかるのか、工事に対する補助金は受けられないのか等々の相談に変化していく。こうしたことを考えたうえで、相談窓口業務の開設時期やその方法、内容をマニュアル化しておく必要性を感じた。

今回の熊本地震を受け、全国宅地擁壁技術協会九州支部の一員として活動を行ったが、大きな地震災害は九州以外の地域で起るものと思っていたことを深く反省し、常日頃から備えることの大切さをこの経験から学んだ。この貴重な経験を今後の協会活動に活かし、緊急時にも「誰でもいつでも動ける」支部の体制づくり、スムーズに動けるマニュアルづくりに支部の一員として努力していきたい。

★危機管理委員会の活動報告については、1・2面の「平成28年熊本地震特集記事」にて説明しておりますので、ご参照下さい。

## 平成27年度技術委員会活動報告

技術委員会では、会員社の技術力向上を目的とした様々な活動を推進しており、平成27年度は9回の委員会開催と2回の講習会を実施しました。ここでは、昨年度実施した活動の中から重要項目を抜粋して報告します。

### 平成27年度の取組み項目

<b>1 プレコン管理士制度の運営</b>	
プレコン管理士講習会開催	91名受講 (グランメッセ熊本: 9/3開催)
プレコン管理士ミーティング	24名参加 (熊本国道57号滝室坂: グランメッセ熊本: 10/9)
プレコン管理士試験実施	85名受験 (グランメッセ熊本: 3/23開催)
<b>2 技術講習会の開催</b>	
第1回技術講習会開催	コンクリート診断士試験対策 (鹿児島大学: 6/24開催)
<b>3 各種技術情報の収集</b>	産官学建設技術交流会への参加
<b>4 KyuPEC会議への参加</b>	<b>5 協会統一型製品開発・導入WGへの参画</b>

### 平成28年度の技術に関する各種スケジュール

	プレコン管理士制度	コンクリート診断士
2016/3	2016/3/23 第3回プレコン管理士試験 (グランメッセ熊本) <b>終了</b>	
2016/6		2016/6/20 コンクリート診断士講習会 (鹿児島大学) <b>終了</b>
2016/9	2016/9/8 平成28年度プレコン管理士講習会 (熊本流通情報会館) <b>終了</b>	2016/7 コンクリート診断士試験 ※日本コンクリート工学会主催 <b>終了</b>
2016/10	2016/10 平成28年度プレコン管理士ミーティング (詳細未定)	
2017/3	2017/3 第4回プレコン管理士試験 (開催地未定)	

## 日本コンクリート工学会 (JCI) 「熊本地震に関する特別委員会」

### 参画報告

「平成28年熊本地震」の発生に伴い、被災地域の甚大な被害に対して、早期の復旧・復興を目指した動きが加速しているなか、(一社)日本コンクリート工学会(JCI)においても学識経験者を中心としたメンバーで「熊本地震に関する特別委員会」を設置し、本災害の概要および詳細並びに今後の復旧を目指した調査・研究を実施することとなり、当協会も協力委員として参画することとなりました。

この委員会は、首都大学東京・芳村名誉教授が委員長となり、委員の中に多数のKyuPEC学界正会員の先生方が中心メンバーとして参画しており、当協会としてもこの委員会に協力しております。

尚、同委員会の概要は以下の通りです。

- 名称: 「熊本地震に関する特別委員会」
- 委員長: 芳村 学 (JCI副会長/首都大学東京名誉教授)
- 副委員長: 二羽 淳一郎 (JCI副会長/東京工業大学教授)
- 副委員長: 佐藤 嘉昭 (JCI九州支部長/大分大学教授/KyuPEC学界正会員)
- 期間: 約2年間 (平成28年6月20日～平成30年3月31日)
- 主要活動内容
  - JCI年次大会2016 (博多) 前までに、各委員が保持している情報に関して幹事から情報提供をお願いし、コンクリート関係の構造物の被害状況を具体的に調査区域などの整理を行う。
  - JCI年次大会2016 (博多) において、
    - ①収集した被害状況の資料を元にパネルや写真の展示を行う。コンクリートテクノプラザのブースに展示する。
    - ②会場内に各県の特産品販売コーナーを設置し、とくに熊本県産品においては側面から復旧・復興を支援することとし、かつパネルや写真を展示する。
  - ③情報を整理した結果をもとに被害調査が進んでいない地域を抽出し、具体的な調査の実施計画を立てる。
  - ④JCIとしての特徴をだすために、生コン工場や製品工場、骨材関係の企業を対象に調査を実施する。既に復旧している場合についてはヒアリング調査を行う。
  - ⑤既に多くの学会や機関が被害調査などを実施しており、JCI九州支部の委員もそれに参画している方から、他の学会や機関との連携を図り、情報提供をお願いする。
  - ⑥委員会終了後に報告書を作成し、報告会を開催する。

「熊本地震に関する特別委員会」名簿 (2016年度)

委員長 芳村 学 (首都大学東京)

副委員長 二羽 淳一郎 (東京工業大学大学院)

佐藤 嘉昭 (大分大学工学部)

- 幹事 佐川 康貴 (九州大学大学院)
- 山口 謙太郎 (九州大学大学院)
- 委員 土木系委員12名 (大学・高専9名/行政1名/企業2名)
- 建築系委員10名 (大学・高専7名/企業3名)
- 協力委員 (NPO) 大分県コンクリート診断士会 (NPO) 九州コンクリート製品協会

### 第1回熊本地震に関する特別委員会

- 日時 平成28年9月1日 (木) 13:30~15:30
- 場所 ホテルセントラーザ博多 (福岡市博多区)
- 委員長挨拶と委員会設置の経緯説明
  - 出席委員の自己紹介
  - 各委員の保有している調査関係データなどの紹介
  - 熊本地震における大分県内の被害状況 (大分県診断士会)
  - 2016年熊本地震災害調査報告会 (日本建築学会災害委員会)
  - 平成28年熊本地震被害調査結果報告会 (土木学会地震工学委員会)
  - 熊本地震の復興インフラの高耐久化・高品質化に関する調査 (土木学会コンクリート委員会)
  - 2016年熊本地震日本イコモス調査報告書 (日本イコモス国内委員会)
  - コンクリート二次製品製造工場における被害例 (九州高圧コンクリート工業)
  - 熊本地震のプレキャスト擁壁の被害状況調査 (全国宅地擁壁技術協会九州支部)
  - 熊本地震対応特別委員会募集案内 (九州橋梁・構造工学研究会)
  - コンクリートにおける未利用資源の利用拡大に関する特別委員会からの提言 (日本コンクリート工学会)
  - 熊本地震に係る災害廃棄物の処理実行計画 (熊本県・熊本市HPより)
  - 今後の進め方についての協議
  - ワーキンググループを設置して作業実施
  - ①調査WG②廃棄物利用WG③復旧・復興WG
  - 今後のスケジュール
    - 2016/12 熊本開催
    - 2017/3 東京開催

当協会は、今後の特別委員会活動について①調査WGに参画し、熊本地震の猛威とその被害を製品工場の観点から同学会に対して情報提供してまいります。まずは、熊本県内の製造工場の被害状況調査を実施致しますので、各位のご協力をお願い致します。

# 展望

## 協会の現状と今後への対応



会長 松崎 秀雄

特定非営利活動法人  
九州コンクリート製品協会  
会長 松崎 秀雄

幾分、残暑も和らぎ、しのぎやすい日が多くなりました。皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

まず、はじめに4月14日と4月16日に発生いたしました「平成28年熊本地震」におきまして、被害に遭われました皆様方に対し、心からお見舞いを申し上げます。また、たくさんの方の命も失われました。衷心からご冥福をお祈り申し上げますと共に、いまだ不自由な生活を送られております被災地の皆様にも一日も早く以前の平穏な日々が訪れますことを願っております。

当協会が、全国に先駆けて昨年3月に国交省九州地方整備局様と締結させていただきました「災害対策支援協定」が、まさか

今年6月に行われました第10回通常総会でも報告いたしました通り、近年の会員増強施策と既会員皆様の情報提供およびご協力により、昨年度から多数

具体的なH27年度は3社の正会員入会と1社の準会員入会、賛助会員1社の入会がありました。また、今年度H28年度は、1社の正会員入会、2社の準会員入会がございます。

景況で言えば、当業界は「底の見えない厳しい現状」が続いております。今年7月に行われまして参議院選挙では連立与党の大勝利となりました。既に衆議院でも自民・公明の連立与党で3分の2を超えており、連立与党で戦後最も安定した政治基盤が確立されております。この恵まれた現状をふまえ、是非「アベノミクス」の原点である、経済の浮場のため、タイムリーでかつ

先日、アメリカ大リーグのイチローが大リーグ通算3000本安打を打つ、という金字塔を打ち立てました。調子の悪い時でも日々バットを振り続けたイチローのように、私どもも今は「あせらず、あわてず、じつくりと黙々と愚直にバットを振り続けなければならぬ時期」のようです。

素晴らしいお手本として、私どもも「日々愚直に仕事にまい進すること」と周囲の環境変化を敏感に察知しそれに対する「柔軟な対応」を躊躇せずに行うことでこの厳しい状況を打破できるものと確信いたします。



⑤平成28年度第4回技術委員会  
日時 平成28年7月22日  
場所 八仙閣  
内容 プレコン管理士テキストの改訂内容を最終確認した。  
平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

平成28年度プレコン管理士ミーティング開催を協議した。  
平成28年度Kyuppec会議の提案内容を協議した。  
⑥平成28年度第5回技術委員会  
日時 平成28年8月16日  
場所 八仙閣  
内容

平成28年度プレコン管理士講習会開催を最終確認した。  
平成28年度プレコン管理士ミーティング開催を協議した。  
平成28年度Kyuppec会議の提案内容を最終確認した。

### 平成28年度プレコン管理士技術講習会

平成28年9月8日(木)、熊本市流通情報館(熊本市南区)で平成28年度プレコン管理士技術講習会が開催され、会員・会員外社を含めて合計93名が受講しました。この「プレコン管理士制度」の講習会は今年で5回目の開催となりましたが、今回の講習会では「プレコン管理技術者用テキスト(第3版)」が8月に発行されたことを受けて、新テキストの内容に沿って各章担当

の技術委員が説明しました。  
日時 平成28年9月8日(木)  
10時00分～17時  
場所 熊本市流通情報館(熊本市南区)  
プログラム  
○開会及び本講習会の趣旨説明  
○講習  
講習Ⅰ 第3章「製造」  
講習Ⅱ 第4章「設計」  
講習Ⅲ 第5章「品質管理と検査」  
講習Ⅳ 第6章「耐久性」 第7章「苦情処理」 第10章「マネジメント」  
講習Ⅴ 第8章「安全衛生・公害防止」 第9章「設備管理」  
○特別講演  
「コンクリート系構造物の長寿命化技術について」  
熊本大学教授 村上 聖氏 (Kyuppec委員)  
特別講演では、日頃からKyuppec活動にご協力をいただ



会場 全景

今年3月に3回目の「プレコン管理士認定試験」を実施し、成績優秀者にプレコン管理士の認定をした結果、これまでに92名のプレコン管理士が誕生しております。今後、登録されたプレコン管理士に対する継続教育と役割の付与等について、技術委員



特別講演講師 (熊本大学・村上教授)

 講習会司会 (佐口技術委員)	 講習Ⅰ・講師 (野下技術委員)	 講習Ⅱ・講師 (田中技術委員)	 講習Ⅲ・講師 (内田技術委員)	 講習Ⅳ・講師 (山本技術副委員長)	 講習Ⅴ・講師 (隈田技術委員)
---	--	---	--	--	--

主催者挨拶 (河野技術委員長)

平成25年4月に作成した「プレコン管理技術者用テキスト(第2版)」を3年かけて技術委員会にて作業を進め、今年8月、テキスト第3版として改訂が完成しました。これまでのテキストに加え「設計」の項目が追加され、全10章・230ページと大幅な内容増で作成今年度の講習会でもまいりますので、多数の皆様のご受講・受験をお待ちしております。

### プレコン管理技術者用テキスト改訂

- 早速使用されました。本テキストの内容は以下の通りです。
- プレコン管理技術者用テキスト  
平成28年8月発行(第3版)
- 1章 用語集
  - 2章 コンクリート製品の概要
  - 3章 製造
  - 4章 コンクリート製品の設計
  - 5章 品質管理と検査
  - 6章 耐久性
  - 7章 苦情処理
  - 8章 安全衛生および公害防止
  - 9章 設備管理
  - 10章 マネジメント
- 今後継続して示方書や基準の変更等に併い内容を更新してまいりますので、皆様の技術力向上にお役立て下さい。
- ※購入を希望される方は事務局までご連絡下さい。
- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| <P12 | KCコンクリートの解説                     |
| A1   | コンクリート                          |
| A2   | コンクリートの種類                       |
| A3   | コンクリートの配合                       |
| A4   | コンクリートの強度                       |
| A5   | コンクリートの耐久性                      |
| A6   | コンクリートの施工                       |
| A7   | コンクリートの検査                       |
| A8   | SRC (Steel Reinforced Concrete) |
| A9   | FRP (Fiber Reinforced Polymer)  |
| A10  | コンクリートの補修                       |
| A11  | コンクリートの劣化                       |
| A12  | コンクリートの保護                       |



熱心に講習を受ける受講者たち

# ■平成28年度KyUPEC会議開催報告

平成28年8月16日(火)、平成28年度KyUPEC会議が福岡市で開催され、KyUPEC学界正会員、理事・監事、技術委員の多数が出席しました。

会議では、各委員会からの報告・要望事項が説明され、その後、出席者全員での質疑応答や意見交換が活発に行われました。

日時 平成28年8月16日(火)  
12時30分～15時00分  
場所 八仙閣(福岡市)

議題(各委員会からの報告・要望事項)  
①総務企画委員会：総会・例会への参加お願い②広報委員会：協会広報紙への寄稿御礼及び今後の寄稿依頼③技術委員会：プレコン管理士制度運営について、コンクリート製品外観基準策定への協力お願い④危機管理委員会：行政との防災協定締結に向けての取組み



KyUPEC会議全景

【意見交換時の主な発言(抜粋)】  
○製造に従事する技術者等に製品が施工される場所を視察する機会を設けていることや、社員教育という観点からもプレコン管理士ミーティングという取組みは非常に良い企画だと思いが、今後はさらにプレコン管理士の役割に応じた企画も検討すべきである。

○技術レベルの底上げを目的とするのか、制度運営によるメリットの創出を目的とするのかを明確にすべきである。

○プレコン管理士試験合格者が多くなり、受験者の先細り(飽和)が生じた場合、プレコン管理士制度が技術力底上げに貢献するという初期の目的はクリアしたことになるのではないだろうか。そのうえで、上級試験などを導入すると、新たな目標が出てくるかもしれない。

○プレコン管理士テキストを書籍として販売することで、九州以外の人も勉強のために使用するかと思う。その結果、プレコン管理士制度の知名度が向上することも考えられる。

○プレコン管理士試験に合格して登録されただけで終わりでなく、継続した研修制度を設けることが重要である。

○プレコン管理士登録者が、自社においてどのような立場で業務に従事しているのかは協会として把握できていない。プレコン管理士登録者が自社においてもポストが得られるよう、協会としても検討が必要だと考えている。

○各社技術者の社員教育が1社ではできていない現状を、プレコン管理士講習会がカバーしていると考えている。

○継続的な研修として3年毎に講習を受講することで有効期限を更新するシステムを採用している。試験自体は受験者減少になるかと思うが、講習自体は受講者の確保ができるかと考えている。

○行政にプレコン管理士制度を認知してもらい、メリットを享受するためには、試験の透明化、もしくは第三者を交えた評価を受ける必要がある。発注者にも参画を促し制度運営すれば早期に認知が得られると考える。

○平成28年熊本地震・危機管理委員会について)  
○災害に備えて「最低限の資材をストックする」等について九州地方整備局と協議することが必要ではないか。

○協会型製品開発・導入WGが、

○熊本地震での防災協定に基づく活動とプレコン管理士の役割をリンクさせることを検討すべき。製品を納入するだけでなく、プレコン管理士登録者が査定に基づく設計などにも関与できれば、業界全体の底上げにもつながる。

○今回の熊本地震において九州地方整備局との防災協定に基づく取組みを実施したことで、感謝はいただけたが、実益としては防災協定締結団体に加わっていないことも発注は受けられなかった。協定を締結しているメリットとして総合評価の項目に「地域貢献度」が含まれているように、「プレコン管理士が常駐する工場の製品を採用したらポイントが加点される」や「防災協定締結団体の製品を採用したらポイントが加点される」などのメリットを享受できるようにできれば良いのではないかと。

○熊本地震での防災協定に基づく活動とプレコン管理士の役割をリンクさせることを検討すべき。製品を納入するだけでなく、プレコン管理士登録者が査定に基づく設計などにも関与できれば、業界全体の底上げにもつながる。

○今回の熊本地震において九州地方整備局との防災協定に基づく取組みを実施したことで、感謝はいただけたが、実益としては防災協定締結団体に加わっていないことも発注は受けられなかった。協定を締結しているメリットとして総合評価の項目に「地域貢献度」が含まれているように、「プレコン管理士が常駐する工場の製品を採用したらポイントが加点される」や「防災協定締結団体の製品を採用したらポイントが加点される」などのメリットを享受できるようにできれば良いのではないかと。

○熊本地震での防災協定に基づく活動とプレコン管理士の役割をリンクさせることを検討すべき。製品を納入するだけでなく、プレコン管理士登録者が査定に基づく設計などにも関与できれば、業界全体の底上げにもつながる。

○今回の熊本地震において九州地方整備局との防災協定に基づく取組みを実施したことで、感謝はいただけたが、実益としては防災協定締結団体に加わっていないことも発注は受けられなかった。協定を締結しているメリットとして総合評価の項目に「地域貢献度」が含まれているように、「プレコン管理士が常駐する工場の製品を採用したらポイントが加点される」や「防災協定締結団体の製品を採用したらポイントが加点される」などのメリットを享受できるようにできれば良いのではないかと。

## 市場調査委員会

①平成27年度第3回市場調査委員会  
日時 平成28年3月16日  
場所 八仙閣  
内容 平成27年度市場調査レポート作成内容を協議した。

②平成28年度第1回市場調査委員会  
日時 平成28年5月17日  
場所 博多グリーンホテル  
内容 平成28年度の市場調査方法とスケジュールを協議した。

③平成28年度第2回市場調査委員会  
日時 平成28年8月22日  
場所 博多グリーンホテル  
内容 平成28年度市場調査回収データの精査および報告書の構成を協議した。

④平成28年度第3回市場調査委員会  
日時 平成28年6月24日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度第1回技術講習会(コンクリート診断士試験直前講習会)の開催が報告された。プレコン管理士テキスト改訂を協議した。

⑤平成28年度第2回技術委員会  
日時 平成28年5月26日  
場所 ヤマックス会議室  
内容 プレコン管理士ミーティングの開催およびプレコン管理士の役割を協議した。

⑥平成28年度第3回技術委員会  
日時 平成28年6月24日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

⑦平成28年度第4回技術委員会  
日時 平成28年7月13日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

⑧平成28年度第5回技術委員会  
日時 平成28年8月13日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

⑨平成28年度第6回技術委員会  
日時 平成28年9月13日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

⑩平成28年度第7回技術委員会  
日時 平成28年10月13日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

## 技術委員会

①平成27年度第8回技術委員会  
日時 平成28年3月2日  
場所 八仙閣  
内容 プレコン管理士試験の実施内容を協議した。

②平成28年度第1回技術委員会  
日時 平成28年5月17日  
場所 博多グリーンホテル  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

③平成28年度第2回技術委員会  
日時 平成28年8月22日  
場所 博多グリーンホテル  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

④平成28年度第3回技術委員会  
日時 平成28年6月24日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

⑤平成28年度第4回技術委員会  
日時 平成28年7月13日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

⑥平成28年度第5回技術委員会  
日時 平成28年8月13日  
場所 八仙閣  
内容 平成28年度プレコン管理士講習会開催を協議した。

☆前頁より

# 多様な災害リスクを抱える九州 減災・防災・インフラの老朽化対策が喫緊の課題！

国土交通省九州地方整備局長 小平田 浩司



国土交通省九州地方整備局長 小平田 浩司

九州コンクリート製品協会の皆様方には、平素より九州地方整備局の社会資本整備・管理に多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、平成28年4月に発生しました「平成28年熊本地震」において、甚大な被害を受け被災された多くの方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、熊本地震により被災を受けた施設の応急復旧に際して、平成27年3月に締結された災害協定に基づき、支援頂きましたことをこの場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

九州地方整備局は、九州圏広域地方計画、九州ブロックにおける社会資本整備重点計画等に基づき、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで利便性の高い地域社会の実現」及び「日本経済の再生」の分野に重点を置き、施策効果の早期実現を図ってまいります。

急激に伸びる一方、成長著しいアジア諸国との都市間競争に勝ち抜くための成長戦略の具体化による「強い経済」の実現が求められています。また、平成28年熊本地震、平成27年5月の口永良部島噴火や平成24年7月の九州北部豪雨、甚大な被害が予想される南海トラフ巨大地震など、多様な災害リスクを抱えており、今後のさらなる発展のためには、防災・減災対策、高度成長期以降に整備されたインフラの老朽化対策が、喫緊の課題となっております。

さらには、「i-Construction」の取り組みを推進し、ICTの全面的な活用、規格の標準化(コンクリート工等)に努め、建設現場の生産性の向上を図ってまいります。

特に、近年の現場において機械化施工が一般化されていく中、コンクリート工においては、コンクリート二次製品業界の技術革新は著しく、二次製品の最大のメリットである「現場施工の大幅な省力化、迅速施工」並びに「一定な高品質」は、今後の施工段階並びに維持管理段階においても益々求められるものであり、新たな建設生産システムの展開に対しても有効な手段の一

つになりますことを期待してまいります。

今後とも、良きパートナーである皆様と一緒に、熊本地震による被災地域における早期の本格復旧とともに、安全・安心で活力ある九州の社会資本整備・管理に引き続き取り組んでいきたいと考えておりますので、協会の皆様におかれましても、高性能・高品質な製品の開発など高い技術力の維持、研磨に取り組まれることを期待しています。

## ■平成28年度第1回技術講習会

平成28年6月20日(月)、鹿児島大学工学部稲盛会館(鹿児島市)にて、平成28年度第1回技術講習会が開催されました。例年通り、当協会の主催で(株)鹿児島TLOの協力を得て、7月24日に実施された「コンクリート診断士」の受験直前講習として、問題集を作成した講師を招いての講習会となりました。

今後ともこれらの講習会を通して会員各社の技術力向上の一助となるよう積極的に活動を推進してまいりますので、各社技術者の皆様の多数の受講をお待ちしております。

### 施策効果の早期実現を図る

九州地方整備局は、九州圏広域地方計画、九州ブロックにおける社会資本整備重点計画等に基づき、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで利便性の高い地域社会の実現」及び「日本経済の再生」の分野に重点を置き、施策効果の早期実現を図ってまいります。

九州地方整備局は、九州圏広域地方計画、九州ブロックにおける社会資本整備重点計画等に基づき、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで利便性の高い地域社会の実現」及び「日本経済の再生」の分野に重点を置き、施策効果の早期実現を図ってまいります。

九州地方整備局は、九州圏広域地方計画、九州ブロックにおける社会資本整備重点計画等に基づき、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで利便性の高い地域社会の実現」及び「日本経済の再生」の分野に重点を置き、施策効果の早期実現を図ってまいります。

九州地方整備局は、九州圏広域地方計画、九州ブロックにおける社会資本整備重点計画等に基づき、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで利便性の高い地域社会の実現」及び「日本経済の再生」の分野に重点を置き、施策効果の早期実現を図ってまいります。

九州地方整備局は、九州圏広域地方計画、九州ブロックにおける社会資本整備重点計画等に基づき、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで利便性の高い地域社会の実現」及び「日本経済の再生」の分野に重点を置き、施策効果の早期実現を図ってまいります。

### 喫緊の課題への対策を！

九州は、世界の成長センターであるアジアに最も近いという地理的優位性を有しており、全国的にみても外国人入国者数が

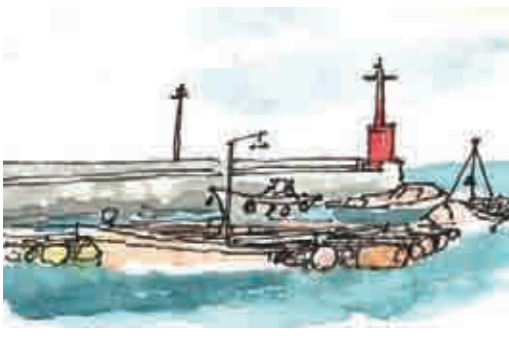
九州は、世界の成長センターであるアジアに最も近いという地理的優位性を有しており、全国的にみても外国人入国者数が

九州は、世界の成長センターであるアジアに最も近いという地理的優位性を有しており、全国的にみても外国人入国者数が

九州は、世界の成長センターであるアジアに最も近いという地理的優位性を有しており、全国的にみても外国人入国者数が

九州は、世界の成長センターであるアジアに最も近いという地理的優位性を有しており、全国的にみても外国人入国者数が

九州は、世界の成長センターであるアジアに最も近いという地理的優位性を有しており、全国的にみても外国人入国者数が



# コンクリート分野の人材育成に向けて



宮崎大学  
名誉教授 中澤 隆雄  
(KyupEC学界正会員)

内外、天地とも平和が達成されるようお願いを込めて制定された年号「平成」になってはや28年、その願いとは裏腹に世界情勢や国内の状況はますます厳しさを増している。我が国では、少子・高齢化も1要因として低迷が続いている経済状況下、建設分野では投資額や業者数さらには就業者数も激減の時代を迎えている。特に若年就業者が著しく減少し、30歳未満の就業者は現状で約45万人程度（建設業就業者の約10%）となっており、他の産業の割合（約17%）に比べて極めて低い割合となっている。これは、建設系の工業高校や専門学校などの生徒数が激減していることに加えて、若者が将来のキャリアパスや目標を持つことができずに、建設業への魅力を感じないために就職希望も少なく、たとえ就職したとしても早期の離職が多くなっているためである。この傾向はコンクリート製品業界においても同様である。コンクリート製品業界の従事者は、経済産業省のデータによれば平成元年には4万人を数えたが、平成27年には1万人に激減し、遠心力RC製品、道路用コンクリート製品、プレストレストコンクリート製品の生産量および出荷額も30~50%にまで低下している。この状況は生コン製造業においても全く同様である。

しかしこの状況を嘆いてばかりいてもはじまらない。このような時期こそ最重要課題の1つである将来を見据えた人材育成・確保に取り組まなければならない。そこで、宮崎県生コンクリート工業組合が実施している人材育成の例を2つ紹介したい。1つは、「生コン学校」の開設である。新規就業希望者の漸減に伴って新規採用が困難になっていることから、建設系の専門科目を学んでいない人材の採用もやむを得ない状況下において、新規採用者の教育が課題となっている。そのため若手技術者の技術力の向上と就業環境の改善や新規就業者の定着促進を目的として、昨年度から開講したものである。本生コン学校は、建設材料としてのセメント、水、骨材、混和材料について理解を深めるとともに、コンクリートの配合設計ができ、フレッシュコンクリートの性質や硬化コンクリートが有すべき強度、耐久性等を熟知し、生コンクリートの品質を確保・管理できることを教育目標としている。講義内容は、1)コンクリート用材料、2)フレッシュおよび硬化コンクリートの性質、3)コンクリートの配合設計

と試験練り、配合の修正計算法、4)スランプ、空気量、5)レディーミクスとコンクリートの製造と運搬、種類と工場の選定、6)コンクリートの品質管理、7)コンクリートの施工 からなっており、連続した4週間で、午前中3時間の講義、午後3時間の実験実習プログラムとなっている。また、学識者、国土交通省や宮崎県の実務担当者、宮崎県生コン工組役職者・職員による特別講義・講和に加えて碎石場、生コン工場の現場見学、さらに本年度は、早期交通開放型舗装コンクリートの現場試験施工も盛り込まれており、高専・大学と同等以上の内容で構成されている。受講者は主として生コン工場従事者、建設業従事者の20名程度と、一部受講の宮崎県職員である。受講者等による講義・実験実習内容の評価もすこぶるよく、今後とも継続して生コン学校を開校していく予定となっている。

もう1つは、宮崎県生コン工組独自の資格である生コン運搬技能士の導入である。生コン購入者に高品質で信頼性の高い生コンを、安全かつ円滑に納入するため、運搬業務に携わる従業員の教育を行い、運搬技能士の資格取得を促進するとともに、技能および資質の向上を図ることを目的として、平成15年から導入されている。生コン車の運転者全員を対象に、道路交通法、労働安全衛生、コンクリートの諸性質・品質管理、運搬業務モラルの4部門についての講習と検定試験を行い、生コンの運搬業務は講習受講終了証、検定試験合格証の交付を受けた者でなければならないとしている。さらに、生コンクリート品質管理監査会議が毎年実施する監査においては、生コン運搬技能士資格を有している生コン工場であることが監査合格の必須条件となっており、発注者や購入者からの信頼もますます高まってきている。この運搬技能士資格制度は、コンクリート製品協会側には直接的な関わりはないであろうが、生コンの品質管理・確保について全生コン工場の経営陣・就業者が一丸となって取り組んでいることは、評価していただけるのではないだろうか。

ここに紹介した内容が、九州コンクリート製品協会が取り組んでいる人材確保・養成の充実に向けて、少しでも参考になれば幸いである。

## ハテナ・・・？ KCクイズ

- <問題>
- Q1 コンクリートは漢字でどう書くか？
  - Q2 現在主流となっているコンクリートはどこが国が開発したか？
  - Q3 コンクリートの語源は何語？ またどんな意味？
  - Q4 粒径の大きいものは粗骨材、小さいものは細骨材と呼ばれる。その線引きは何ミリ径から？
  - Q5 寒中コンクリートが扱われるのは日平均温度何度から？
  - Q6 暑中コンクリートが扱われるのは日平均温度何度から？
  - Q7 コンクリートに力をかけると縮むが、その力をいつまでもかけたままにしておくと、時間とともに縮みが増加していく。このように力は変わらないのに、時間とともにひずみが増加していく現象を□□□□という。

- Q8 鉄骨鉄筋コンクリート構造の「略号」は？  
RC SRC S ALC
- Q9 コンクリート中のナトリウム・カリウムなどのアルカリ金属イオンが、骨材中の特定の鉱物と反応。異常膨張を起こし、ひび割れを生じさせる現象は？
- Q10 粗骨材の最大寸法を( )とすると、同じコンシステンシーのコンクリートを得るための単位水量を減らすことができる。
- Q11 アルカリシリカ反応によるひび割れは、拘束の小さい無筋コンクリート壁において、主として( )に生ずる。
- Q12 高流動コンクリートは塑性粘度が大きいので、これをポンプ圧送する場合の圧力損失は普通コンクリートに比べて( )なる。

<解答>は15面へ

## 九州建設技術フォーラムの開催案内

(告知)

『建設技術の開発・活用・普及促進のために、産学官(企業・大学・行政)それぞれが新技術の開発・活用の最新情報等に関する取組みについて情報を発信・交換し、技術情報の展示、プレゼンテーションなどの形をとりながら連携を深め、九州における更なる建設技術の発展を目指す』ことを主題とした「九州建設技術フォーラム2016」が二日間におわたって開催されます。尚、当協会はこのフォーラムの趣旨に賛同し、実行委員会に参画しております。

今年度のフォーラム開催概要は以下の通りです。

九州建設技術フォーラム  
2015 開催概要(予定)  
開催日 平成28年10月17日(月)  
18日(火)の二日間  
開催地 福岡国際会議場  
1.F・2.F・3.F  
開催プログラム  
★10月17日(月)  
①開会式(実行委員長挨拶)  
②基調講演「九州の地震の特徴」  
講師：九州大学地震火山観測研究センター長 清水 洋氏  
③技術情報の提供(ブース展示

※維持管理技術等の実演あり)／  
プレゼンテーション／新技術・i・Construction  
On相談／ポスターセッション  
／自治体パネル展示)  
★10月18日(火)  
①特別講演「平成28年熊本地震への対応について」  
講師：国土交通省九州地方整備局企画部長 小平 卓氏  
②技術情報の提供  
※例年このフォーラムでは九州地方整備局の関係部署による「新技術相談」コーナーが開設され、参加者からの技術に関する様々な質問に対応しておりますが、今回は加えてi・Constructionについても窓口を開設する予定です。また、学会関連の継続教育プログラム(CPD関連)の登録対象となる予定です。

## 理事会及び各委員会報告

理事会

①平成27年度第6回理事会  
日時 平成28年3月2日  
場所 八仙閣  
内容 技術委員会、協会型製品開発導入WGの開催が報告された。  
②平成28年度第1回理事会  
日時 平成28年5月2日  
場所 八仙閣  
内容 当協会が本フォーラムの実行委員会に参画して以来、協会会員社が毎年技術情報の出展をしております。多数の技術情報が収集できる機会ですので、会員の皆様におかれましてもご来場への協賛を審議した。

平成27年度事業報告 収支決算(平成27年度事業報告 収支決算)の協賛を審議した。  
③平成28年度第3回理事会  
日時 平成28年8月16日  
場所 ヤマックス会議室  
内容 平成27年度事業報告及び収支決算の内容を精査した。  
④平成28年度第4回広報委員会  
日時 平成28年3月2日  
場所 八仙閣  
内容 協会広報紙「Conpas」第24刊の編集会議を実施した。  
平成28年度の活動計画を協議した。

場 八仙閣

理事会(上程案)を審議した。  
平成28年度事業計画・収支予算(理事会上程案)を審議した。  
役員改選(案)を審議した。  
第十回通常総会の開催概要を協議した。  
③平成28年度第2回理事会  
日時 平成28年6月6日  
場所 八仙閣  
内容 総務企画委員会、広報委員会、市場調査委員会、技術委員会の開催が報告された。  
九州地方整備局との防災協定発動後の対応が報告された。  
平成28年熊本地震災害対応に係る感謝状贈呈報告がされた。  
平成28年熊本地震被災地域における建設資材・労働力の需給動向等に関する国土交通省本省との聞き取り調査会議出席が報告された。  
平成27年度プレコン管理士試験合否判定会議結果が報告された。

①平成28年度第1回総務企画委員会  
日時 平成28年4月8日  
場所 ヤマックス会議室  
内容 平成27年度事業報告及び収支決算の内容を精査した。  
②平成28年度第2回総務企画委員会  
日時 平成28年6月6日  
場所 ヤマックス会議室  
内容 平成27年度事業報告及び収支決算の内容を精査した。  
③平成28年度第3回総務企画委員会  
日時 平成28年6月6日  
場所 ヤマックス会議室  
内容 平成27年度事業報告及び収支決算の内容を精査した。



総務企画委員会

算の内容を精査した。

②平成28年度第2回総務企画委員会  
日時 平成28年6月6日  
場所 ※書面会議  
内容 平成27年度事業報告及び収支決算の理事会上程案を作成した。  
平成28年度事業計画及び収支予算の理事会上程案を作成した。  
第十回通常総会の運営を協議した。  
③平成28年度第3回総務企画委員会  
日時 平成28年6月6日  
場所 八仙閣  
内容 第十回通常総会運営の直前確認をした。

①平成28年度第4回広報委員会  
日時 平成28年3月2日  
場所 八仙閣  
内容 協会広報紙「Conpas」第24刊の編集会議を実施した。  
平成28年度の活動計画を協議した。  
②平成28年度第1回広報委員会  
日時 平成28年6月6日  
場所 八仙閣  
内容 協会広報紙「Conpas」第25刊の役割分担会議を実施した。

次頁につづく